介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

結果と課題

令和５年６月

岩国市

Ⅰ　調査の概要

1　調査目的

本市の日常生活圏域における高齢者等の実態や課題を把握し、介護予防・日常生活支援総合事業の評価、及び令和６年度から令和８年度までを計画期間とする「岩国市高齢者保健福祉計画」策定に資する基礎資料を得ることを目的とするため。

2　調査方法

（1）調査地域　　岩国市全域

（2）調査方法　　郵送法

（3）調査対象　　市内に居住する 65 歳以上の高齢者から 5,000 人を無作為抽出

〔内訳〕①介護保険の認定を受けていない一般高齢者（4,757 人）

②介護保険の要支援１，２認定者（235 人）

③事業対象者（8 人）

（4）回収数　　3,350 人（67.0%）（有効回収数　3,325 人（66.5%））

（5）調査時期　　令和５年２月３日～令和５年２月 28 日

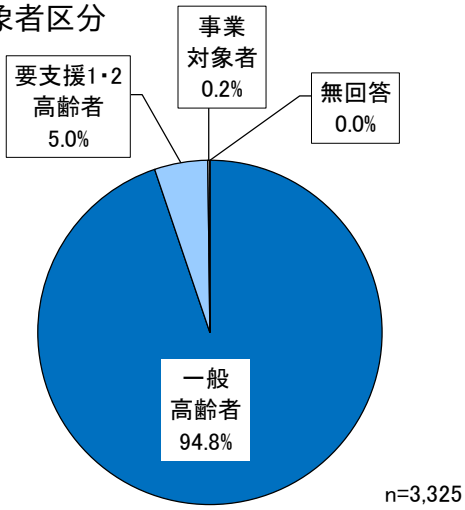
3　報告書の見方

- 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（%）で示してある。これらの数値は小数点以下第２位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0%とならない場合がある。
- ２つ以上の回答（複数回答）を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- グラフ中の「ｎ」は質問に対する回答数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。

Ⅱ　調査結果

1　回答者の属性

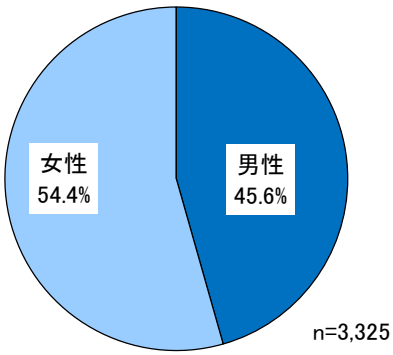
（1）対象者区分



	回答数	割合
一般高齢者	3,151	94.8%
要支援1･2高齢者	166	5.0%
事業対象者	8	0.2%
無回答	－	－
全体	3,325	100.0%

（2）性別

- 回答者の性別は男性が 45.6%、女性が 54.4%と女性の割合が高く、令和元年度調査と同様の割合となっている。

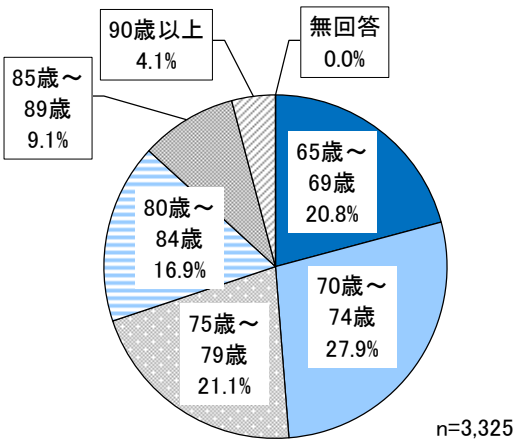


	回答数	割合
男性	1,517	45.6%
女性	1,808	54.4%
無回答	－	－
全体	3,325	100.0%

※前回調査結果は、男性 44.0%・女性 56.0%

（3）年齢

- 年齢は、前期高齢者と後期高齢者が概ね半数ずつとなっている。



	回答数	割合
65歳～69歳	693	20.8%
70歳～74歳	928	27.9%
75歳～79歳	702	21.1%
80歳～84歳	562	16.9%
85歳～89歳	304	9.1%
90歳以上	136	4.1%
無回答	－	－
全体	3,325	100.0%

※前回調査結果は、65～69 歳 22.2%・70～74 歳 25.9%・75～79 歳 22.5%・80～84 歳 16.2%・85～89 歳 10.0%・90 歳以上 3.2%

（4）日常生活圏域

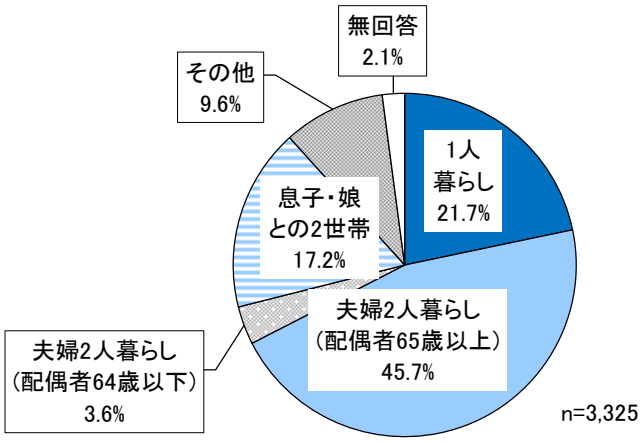
	回答数	割合
岩国1	1,028	30.9%
岩国2	712	21.4%
岩国3	688	20.7%
岩国4	601	18.1%
岩国5	296	8.9%
無回答	－	－
全体	3,325	100.0%

※日常生活圏域区分

岩国 1…麻里布・東・装港・柱島・川下・愛宕・小瀬
岩国 2…岩国・平田・藤河・御庄・北河内・南河内・師木野
岩国 3…灘・通津・由宇
岩国 4…玖珂・周東
岩国 5…本郷・錦・美川・美和

（5）家族構成

- 家族構成は、１人暮らしが 21.7%、夫婦２人暮らしが 49.3%となっている。



	回答数	割合
1人暮らし	722	21.7%
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	1,519	45.7%
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	121	3.6%
息子・娘との2世帯	572	17.2%
その他	320	9.6%
無回答	71	2.1%
全体	3,325	100.0%

※前回調査結果は、1 人暮らし 21.1%・夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）47.5%、夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）3.8%、息子・娘との 2 世帯 15.5%、その他 10.9%

（6）住居形態

- 住居形態は、全体では持家の割合が約９割を占めているが、男女ともに１人暮らしでは、公営賃貸住宅（市営住宅・県営住宅）や民間賃貸住宅（アパート等）の割合が他の層よりも高くなっている。

【住居形態（家族構成別）】

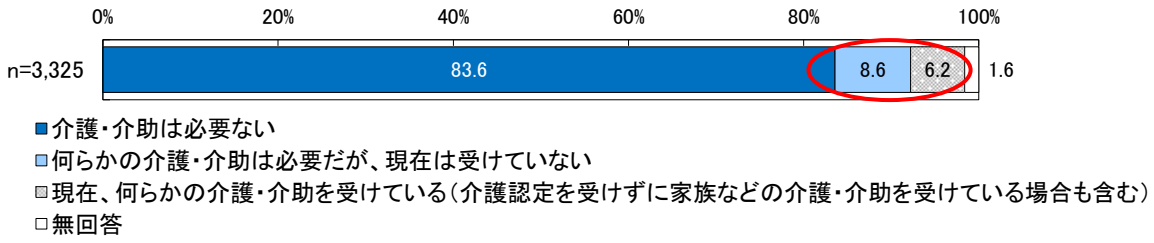
	回答数	持家（一戸建て）	持家（マンション等）	公営賃貸住宅（市営住宅、県営住宅）	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（アパート等）	その他の賃貸住宅	その他	無回答
全体	3,325	86.1%	1.9%	3.1%	2.5%	2.7%	0.6%	1.2%	1.9%
男性　1人暮らし	231	71.4%	1.7%	7.4%	5.2%	10.0%	1.3%	1.3%	1.7%
夫婦2人暮らし	880	90.9%	1.7%	1.6%	1.8%	2.2%	0.1%	0.6%	1.1%
その他	372	89.8%	1.6%	1.6%	2.7%	1.9%	0.5%	1.6%	0.3%
女性　1人暮らし	491	79.2%	2.0%	6.7%	3.9%	4.7%	1.2%	1.6%	0.6%
夫婦2人暮らし	760	90.7%	2.8%	2.5%	1.4%	1.3%	0.7%	0.5%	0.1%
その他	520	88.1%	1.5%	2.7%	2.7%	1.3%	0.4%	2.5%	0.8%

2 介護予防

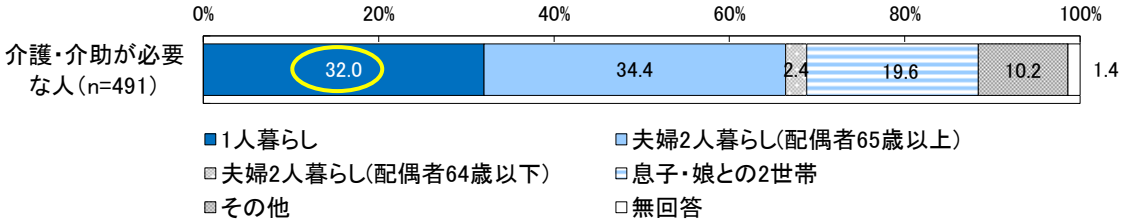
(1) 介護の必要性と要因

- 現在、普段の生活で介護、介助の必要がある人は、全体では 14.8%となっており、その内 32.0%が 1 人暮らしとなっている。

【介護・介助の必要性】

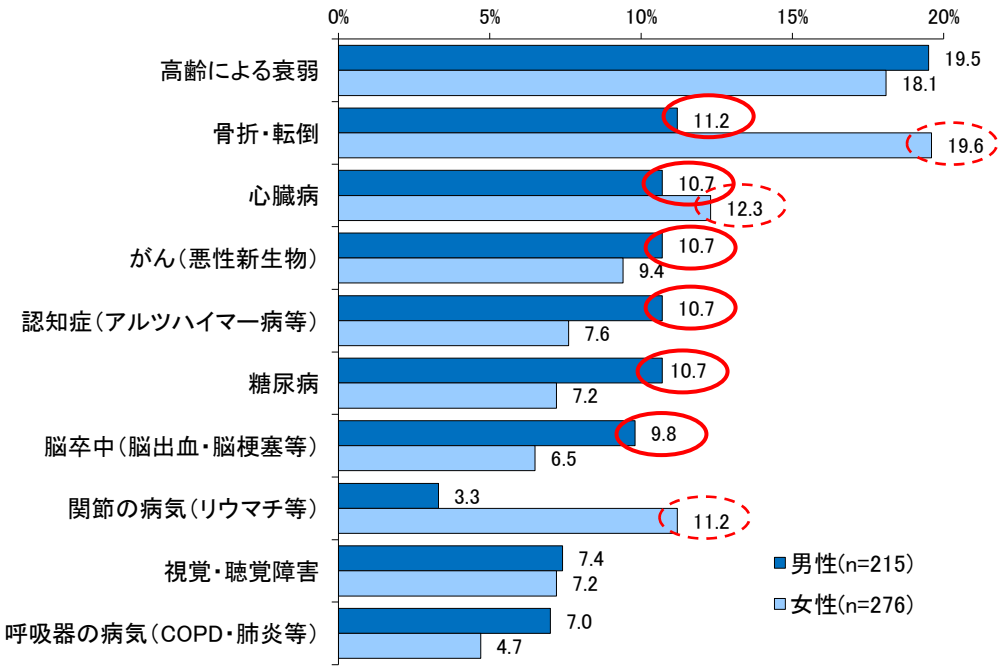


【家族構成/現在普段の生活で介護・介助が必要な人】



- 介護・介助が必要になった要因は、男性は「高齢による衰弱」に続いて、「骨折・転倒」、「心臓病」、「がん（悪性新生物)」、「認知症（アルツハイマー病等)」、「糖尿病」、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等)」が上位となっている。
- 女性は「骨折・転倒」の割合が約 2 割と最も高く、他に「高齢による衰弱」、「心臓病」、「関節の病気（リウマチ等)」が上位となっている。

【介護・介助が必要になった要因(性別)/上位 10 項目】



（2）運動器機能の低下

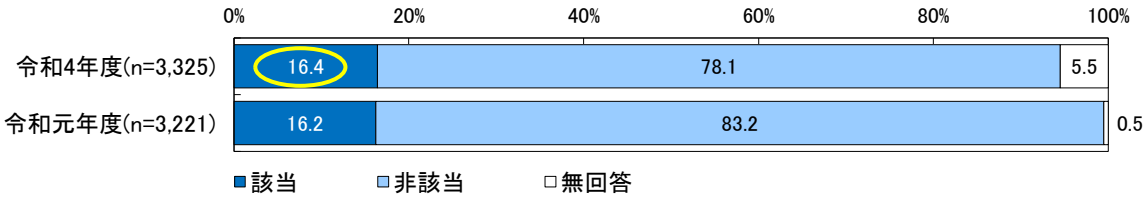
■運動器機能が低下している人

問２（１）～問２（５）で下表の選択肢を３問以上回答した人が、運動器機能が低下している人に該当する。

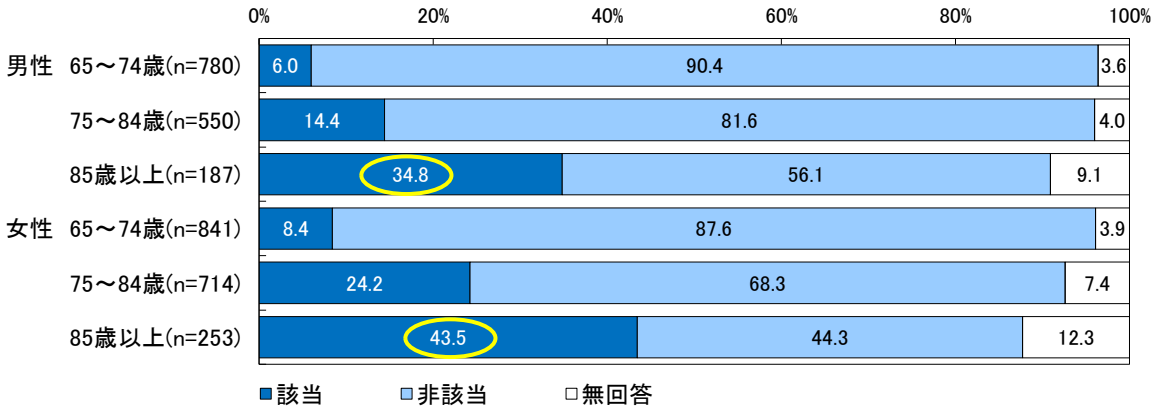
設問		該当選択肢
問 2(1)	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っているか	3　できない
問 2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか	3　できない
問 2(3)	15 分位続けて歩いているか	3　できない
問 2(4)	過去１年間に転んだ経験があるか	1　何度もある　　2　1度ある
問 2(5)	転倒に対する不安は大きいか	1　とても不安である 2　やや不安である

- 運動器機能が低下している人の割合は全体で 16.4％であり、男女ともに 85 歳以上では３割を超えている。

【運動器機能が低下している人の割合（前回調査結果との比較）】



【運動器機能低下している人の割合（性・年齢別）】



（3）閉じこもり傾向

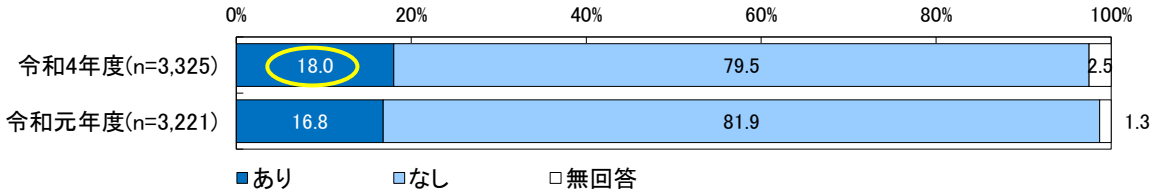
■閉じこもり傾向がある人

問２（６）で下表の選択肢を回答した人が、閉じこもり傾向がある人に該当する。

設問		該当選択肢
問 2(6)	週に1回以上は外出しているか	1　ほとんど外出しない　　2　週1回

- 閉じこもり傾向がある人の割合は、全体で 18.0％となっている。

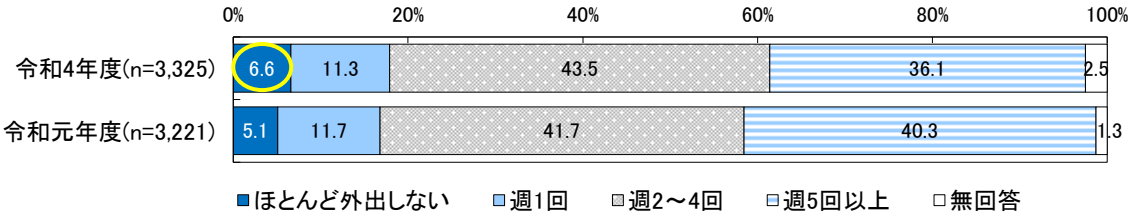
【閉じこもり傾向がある人の割合（前回調査結果との比較）】



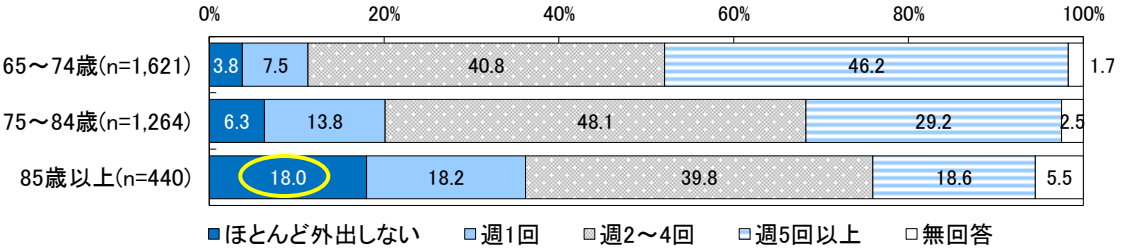
（4）外出の状況

- 外出頻度は、「ほとんど外出しない」と回答した人の割合が 6.6％であり、前回調査結果と比較すると、特徴的な変化はみられない。
- 年齢別にみると、「ほとんど外出しない」と回答した人の割合は、年齢が上がるほど高く、85 歳以上で 18.0％となっている。

【外出頻度（前回調査結果との比較）】

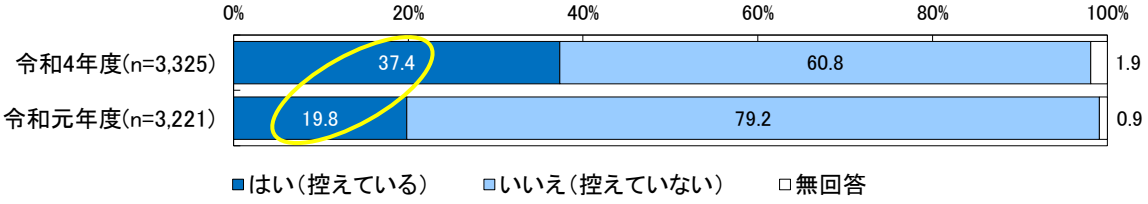


【外出頻度（年齢別）】



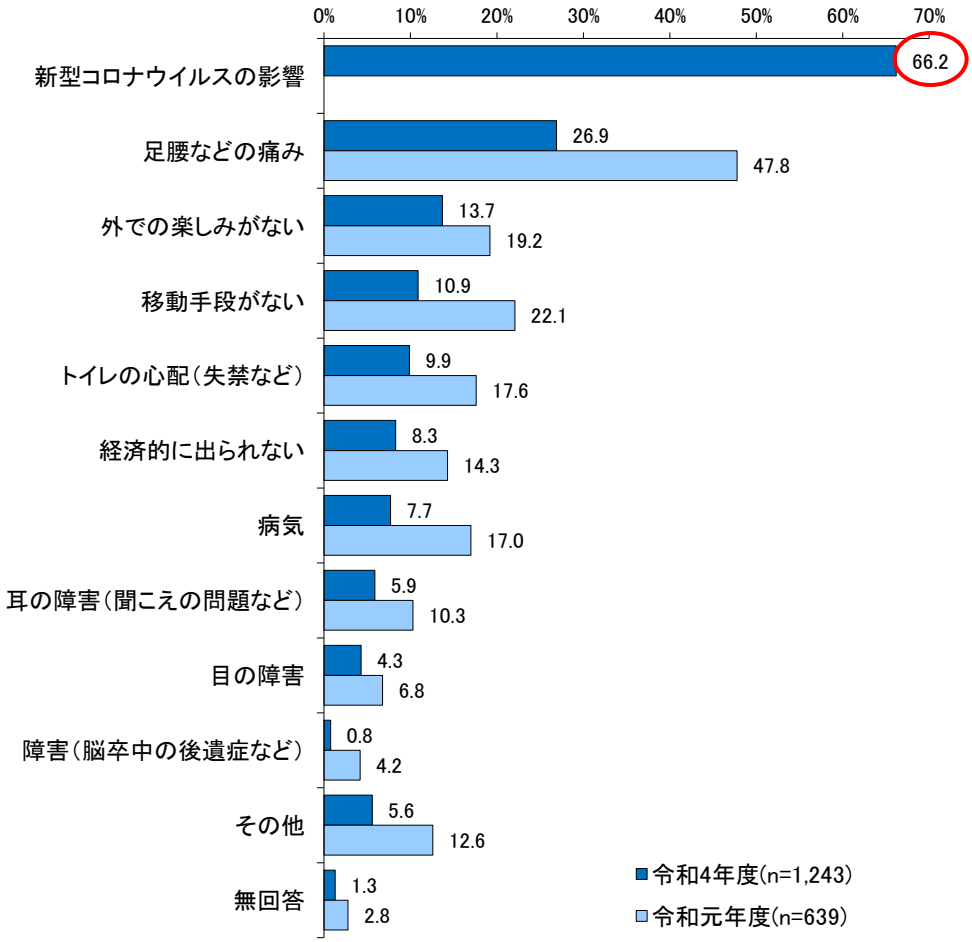
● 外出を控えているかについて前回調査結果と比較すると、「はい（控えている）」と回答した人の割合は 37.4％であり、上昇している。

【外出を控えていることの有無（前回調査結果との比較）】



● 外出を控えている理由は、「新型コロナウイルスの影響」と回答した人の割合が 66.2％で最も高く、続いて「足腰などの痛み」と回答した人の割合が 26.9％となっている。

【外出を控えている理由（前回調査結果との比較）】



- 日常生活圏域別にみると、すべての圏域で「新型コロナウイルスの影響」と回答した人の割合が最も高くなっており、岩国４で７割台となっている。
- 「足腰などの痛み」と回答した人の割合は、岩国１で３割台となっている。

【外出を控えている理由（日常生活圏域別）】

	回答数	新型コロナウイルスの影響	足腰などの痛み	外での楽しみがない	移動手段がない	トイレの心配（失禁など）	経済的に出られない	病気	耳の障害（聞こえの問題など）
岩国1	387	67.2%	32.0%	16.0%	10.6%	9.6%	7.8%	6.7%	6.7%
岩国2	242	65.3%	23.6%	12.4%	11.2%	8.3%	5.0%	9.1%	4.1%
岩国3	245	64.1%	25.7%	14.3%	11.4%	9.8%	8.2%	6.1%	6.9%
岩国4	242	71.5%	24.4%	12.0%	9.5%	10.3%	11.2%	9.9%	5.8%
岩国5	127	59.1%	24.4%	11.0%	12.6%	13.4%	11.0%	7.1%	4.7%

	回答数	目の障害	障害（脳卒中の後遺症など）	その他	無回答
岩国1	387	4.4%	1.6%	5.4%	1.0%
岩国2	242	2.5%	－	4.5%	1.2%
岩国3	245	5.3%	0.4%	8.2%	1.6%
岩国4	242	3.7%	1.2%	3.7%	0.8%
岩国5	127	7.1%	－	6.3%	2.4%

［検討するべき課題］

（運動器機能の低下）

- 運動器機能が低下している人は 16.4％となっており、介護・介助が必要となった理由としても、骨折や転倒、関節の病気が上位に挙がっている。
- 外出を控えている理由としても「足腰などの痛み」を挙げる割合が高くなっている。
- 個人の状態に応じた運動器機能の向上を目的とする取組が重要であるとともに、地域の活動への参加や普段の生活での一人一人の取組を促す等、早期から骨折予防に取り組み、運動器機能が低下することを防ぐ取組が重要である。

（外出の状況）

- 外出を控えている理由として「足腰などの痛み」を挙げる割合が最も高くなっているとともに「外での楽しみがない」という回答もあることから、運動器機能の低下を予防することにつながる活動や、生きがいや楽しみにつながる活動へ、日頃から参加できる地域の環境づくりが重要である。
- 外出を控えている理由として「新型コロナウイルス感染症の影響」と回答した割合が６割を超えたことから、感染症の感染防止に配慮して活動を継続できる環境づくりが重要である。

（5）栄養・食生活

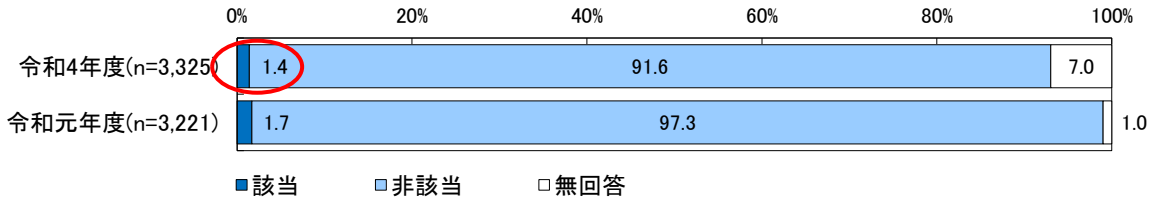
■低栄養が疑われる人

ＢＭＩが 18.5 未満、問３（７）で下表の選択肢を回答した人が、低栄養が疑われる人に該当する。

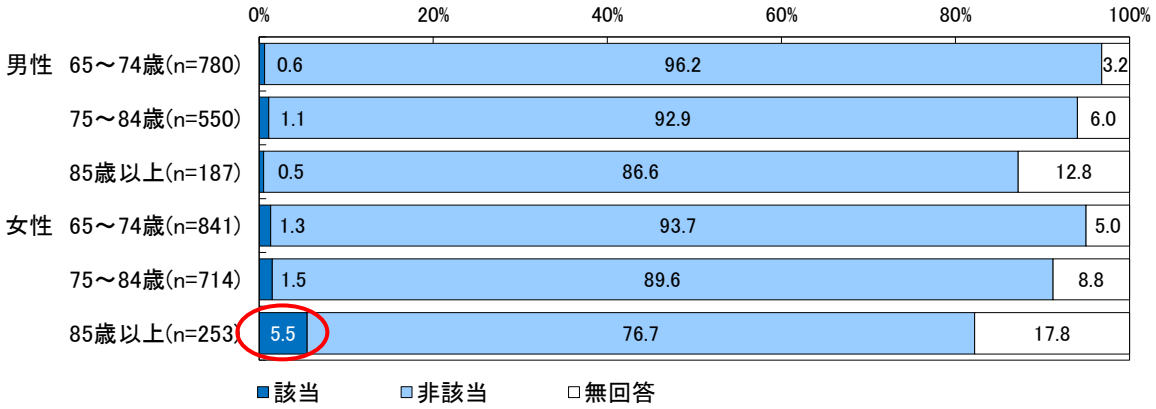
設問		該当選択肢
問 3(1)	BMI	18.5 未満
問 3(7)	6 か月間で 2kg 以上の体重減少があったか	1　はい

● 低栄養が疑われる人の割合は、全体で 1.4%であり、性・年齢別にみると女性 85 歳以上で 5.5%となっている。

【低栄養が疑われる人の割合（前回調査結果との比較）】

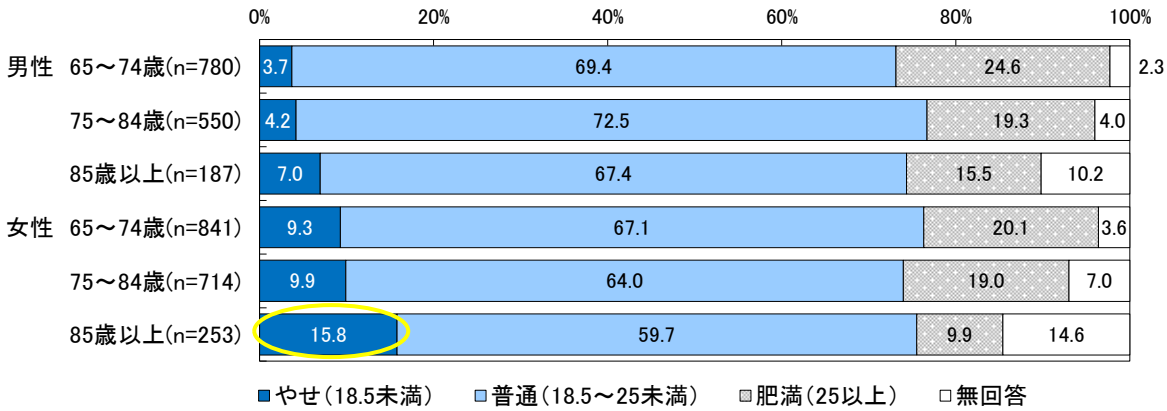


【低栄養が疑われる人の割合（性・年齢別）】



● ＢＭＩが「やせ」に該当する人の割合は、女性 85 歳以上で 15.8%となっている。

【ＢＭＩ（性・年齢別）】



［検討するべき課題］

（食生活の改善）

- 低栄養が疑われる人の割合は 1.4％とわずかであるが、女性 85 歳以上では 5.5％となっている。
- 食事の摂取量の減少だけでなく、偏った食事等による、高齢者の低栄養は問題となっており、また、低栄養はフレイルの要因の一つにもなっているため、食事や栄養に関する正しい知識を周知するとともに、配食等による栄養バランスのよい食事の摂取や、地域で楽しく食事をする機会の設定など、様々な面から働きかけを行うことが重要である。

（6）口腔機能の低下

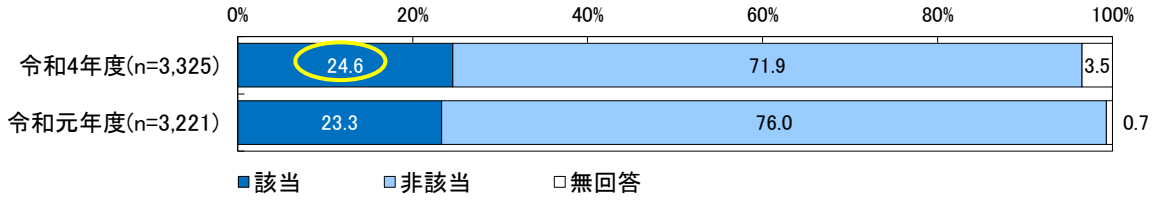
■口腔機能が低下している人

問３（２）～問３（４）で下表の選択肢を２問以上回答した人が、口腔機能が低下している人に該当する。

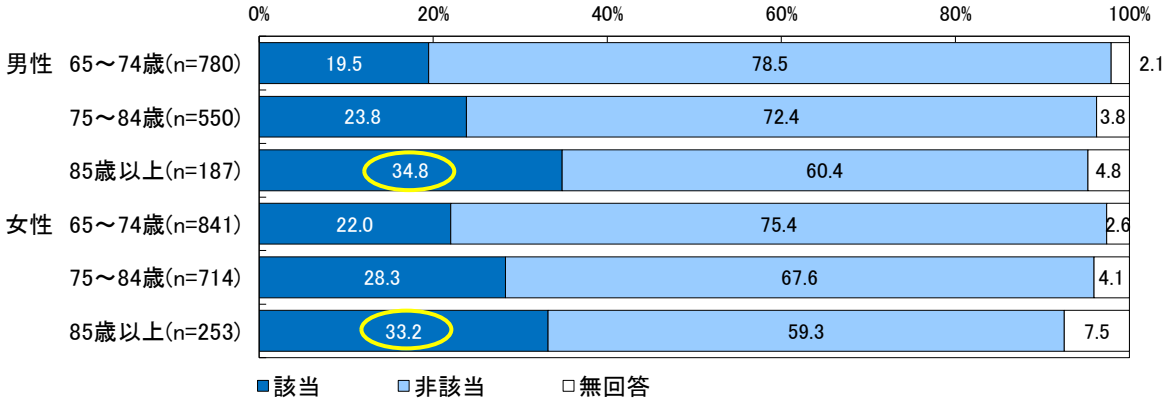
設問		該当選択肢
問 3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	1　はい
問 3(3)	お茶や汁物等でむせることがあるか	1　はい
問 3(4)	口の渇きが気になるか	1　はい

- 口腔機能が低下している人の割合は、全体で24.6％であるが、男女ともに85歳以上では３割を超えている。

【口腔機能が低下している人の割合（前回調査結果との比較）】



【口腔機能が低下している人の割合（性・年齢別）】



［検討するべき課題］

（口腔機能の低下）

- 口腔機能が低下している割合は年齢が高くなるほど高くなり、男女ともに85歳以上では３割を超えている。
- 口腔機能を維持・改善することは、栄養の摂取だけでなく、コミュニケーションのための機能を維持することにもつながることから、オーラルフレイルの予防や心身ともに自立した生活を送るための重要性を広く周知するとともに、歯と口腔の正しいケアの周知や嚥下機能を維持・向上するための取組が重要である。

（7）認知機能の状況

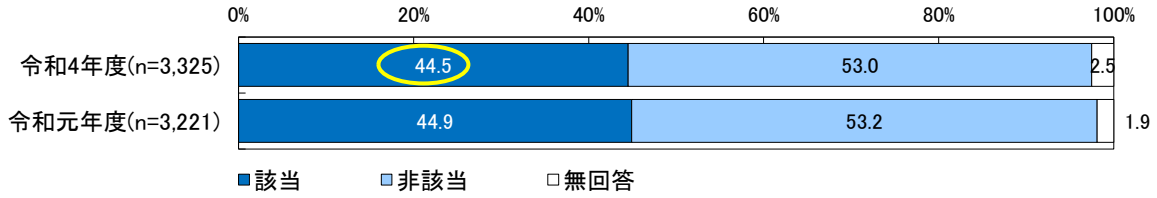
■認知機能が低下している人

問４（１）で下表の選択肢を回答した人が、認知機能が低下している人に該当する。

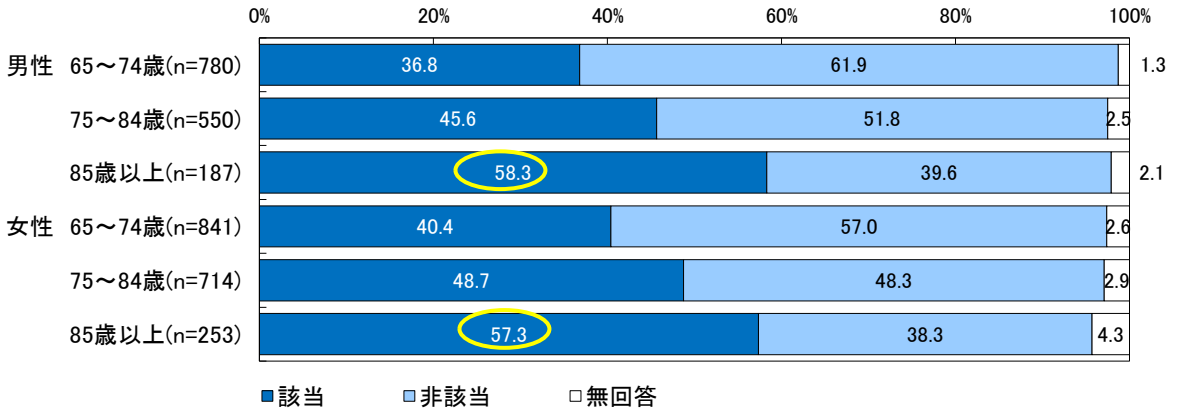
設問		該当選択肢
問 4(1)	物忘れが多いと感じるか	1　はい

- 認知機能が低下している人の割合は、全体で44.5%であるが、男女ともに85歳以上では５割を超えている。

【認知機能が低下している人の割合（前回調査結果との比較）】



【認知機能が低下している人の割合（性・年齢別）】



［検討するべき課題］

（認知機能の低下）

- 認知機能低下のある人や認知症の人が早い段階で適切な支援機関につながることができるように、早期発見・早期対応ができる支援体制の推進が重要である。

（8）自立の状況

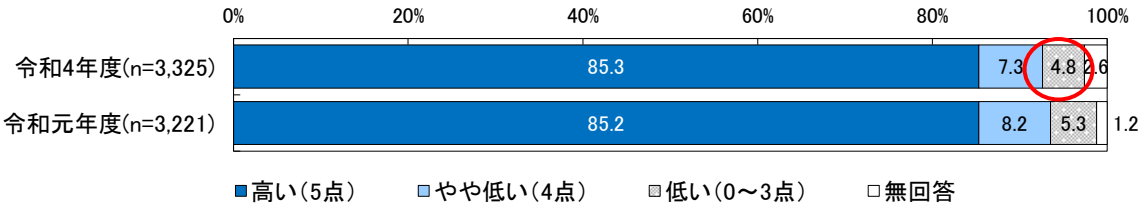
■手段的自立度（IADL）

問４（４）～問４（８）で下表の選択肢を回答した場合それぞれ１点とし、合計点数が５点の人は自立度が高い、４点の人は自立度がやや低い、０～３点の人は自立度が低い人に該当する。

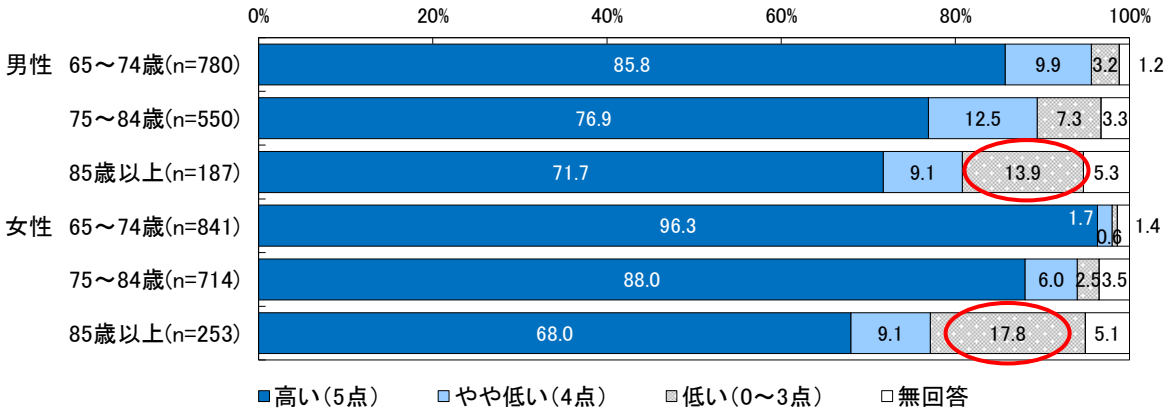
設問		該当選択肢
問 4(4)	バスや電車を使って1人で外出	1　できるし、している 2　できるけどしていない
問 4(5)	食品・日用品の買い物	1　できるし、している 2　できるけどしていない
問 4(6)	食事の用意	1　できるし、している 2　できるけどしていない
問 4(7)	請求書の支払い	1　できるし、している 2　できるけどしていない
問 4(8)	預貯金の出し入れ	1　できるし、している 2　できるけどしていない

- 手段的自立度（ＩＡＤＬ）が低い人の割合は 4.8%であるが、男性 85 歳以上で 13.9%、女性 85 歳以上で 17.8%となっている。

【手段的自立度（ＩＡＤＬ）（前回調査結果との比較）】



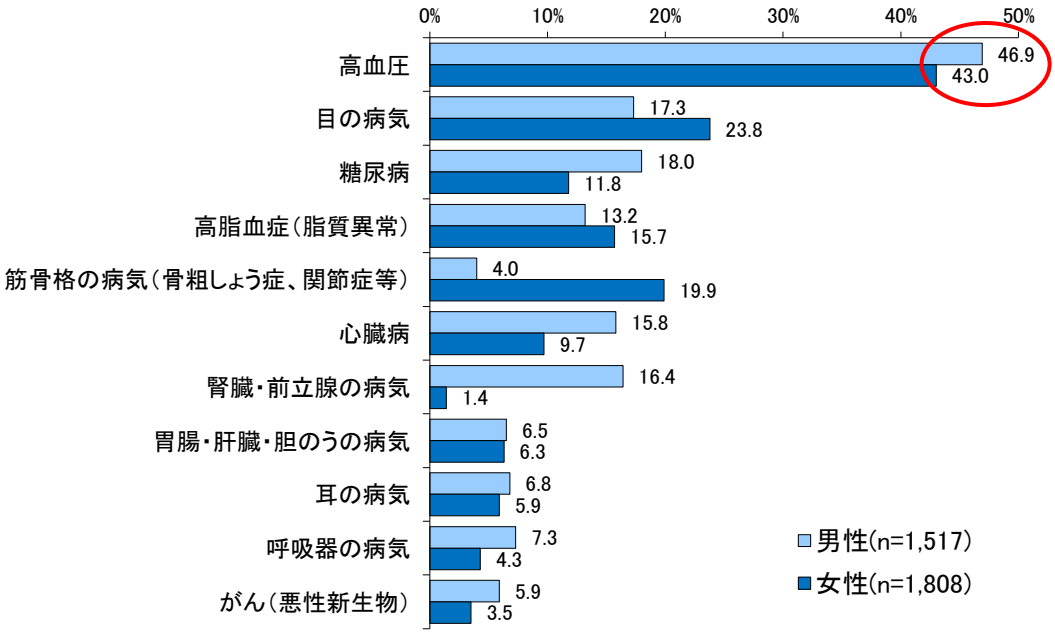
【手段的自立度（ＩＡＤＬ）（性・年齢別）】



（9）現在治療中、後遺症のある病気

- 現在治療中、後遺症のある病気について約８割の人が何らかの病気を回答しており、「高血圧」と回答した人の割合が男女ともに最も高くなっている。

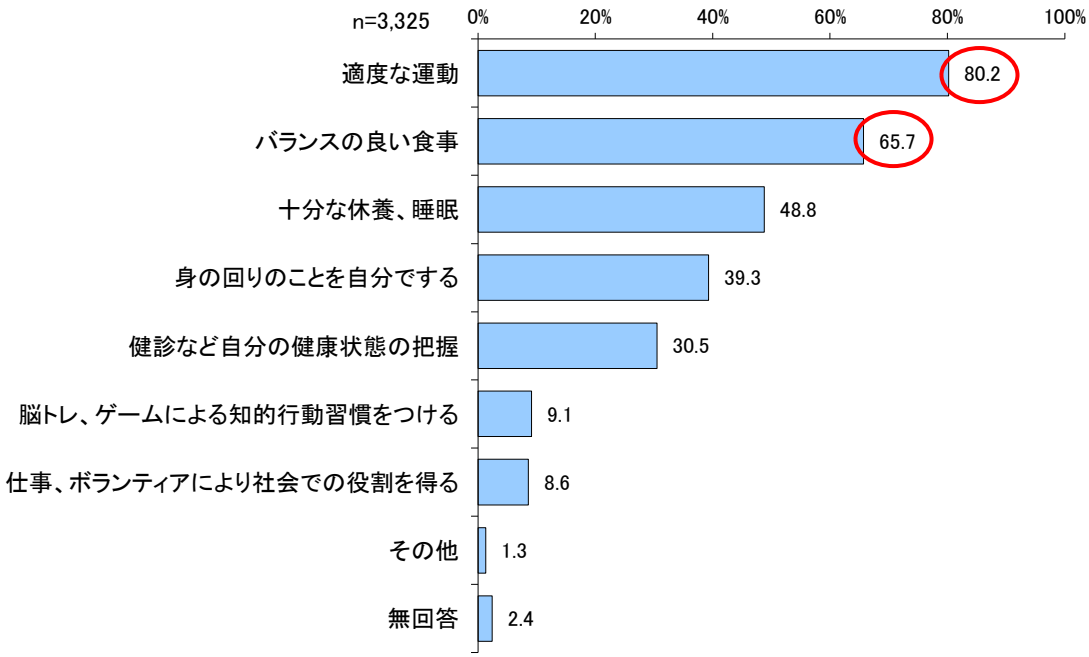
【現在治療中、または後遺症のある病気（上位 11 項目）】



（10）介助・介護が必要ない生活を続けるために重要なこと

- 介助・介護が必要ない生活を続けるために重要なことについて、「適度な運動」と回答した人の割合が 80.2％と最も高く、次いで「バランスの良い食事」（65.7％）となっている。

【介助・介護が必要ない生活の継続のために重要なこと】



［検討するべき課題］

（生活習慣病）

- 男女ともに現在治療中や後遺症のある病気として高血圧が上位に挙がっており、男性では要介護となった要因として生活習慣病が上位に挙がっている。
- 若い世代から生活習慣病を予防するための継続した取組が重要であるとともに、重症化を防止する取組が重要である。

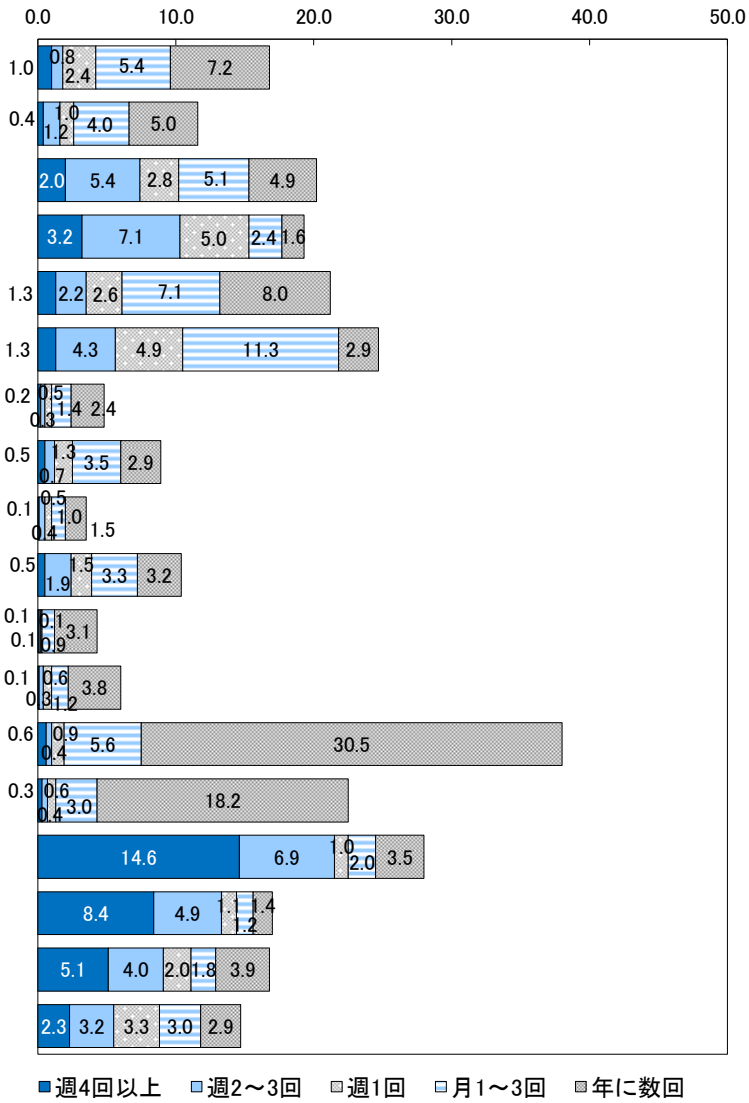
3 社会参加

（1）地域での活動への参加状況

- 仕事も含めて何らかの地域での活動に年に数回以上参加している人の割合は男性で 73.5%、女性で 67.7%となっている。
- 年に数回以上の参加の割合が最も高い活動は、男性では「町内会・自治会の活動」、女性では「趣味関係のグループ」となっている。
- 週１回以上の参加の割合が高い活動は、男性では「収入のある仕事」、女性では「スポーツ関係のグループやクラブ」となっている。

【地域活動への参加状況（性別）】

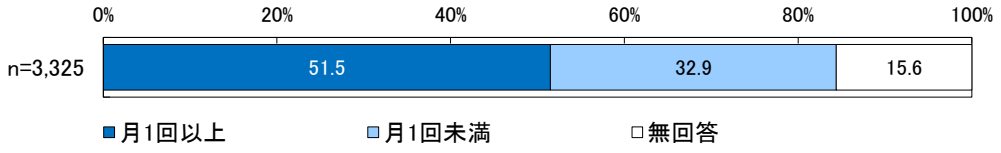
		週１回以上	月１回以上
ボランティアのグループ	男性	4.2%	9.6%
	女性	2.6%	6.6%
スポーツ関係のグループやクラブ	男性	10.2%	15.3%
	女性	15.3%	17.7%
趣味関係のグループ	男性	6.1%	13.2%
	女性	10.5%	21.8%
学習・教養サークル	男性	1.0%	2.4%
	女性	2.5%	6.0%
介護予防のための通いの場	男性	1.0%	2.0%
	女性	3.9%	7.2%
老人クラブ	男性	0.3%	1.2%
	女性	1.0%	2.2%
町内会・自治会	男性	1.9%	7.5%
	女性	1.3%	4.3%
収入のある仕事	男性	22.5%	24.5%
	女性	14.4%	15.6%
健康づくり活動	男性	11.1%	12.9%
	女性	8.8%	11.8%



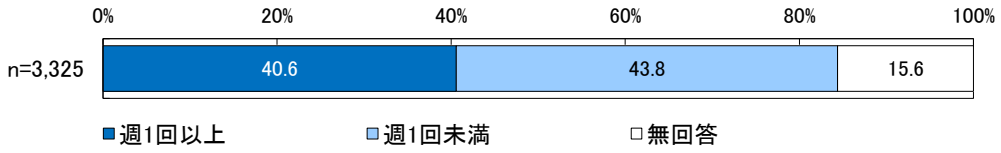
男性　n=1,517 女性　n=1,808

- 地域活動への参加状況について、「月１回以上」参加している割合が 51.5%、「週１回以上」参加している割合が 40.6%となっている。

【地域活動への参加状況（月１回以上）】

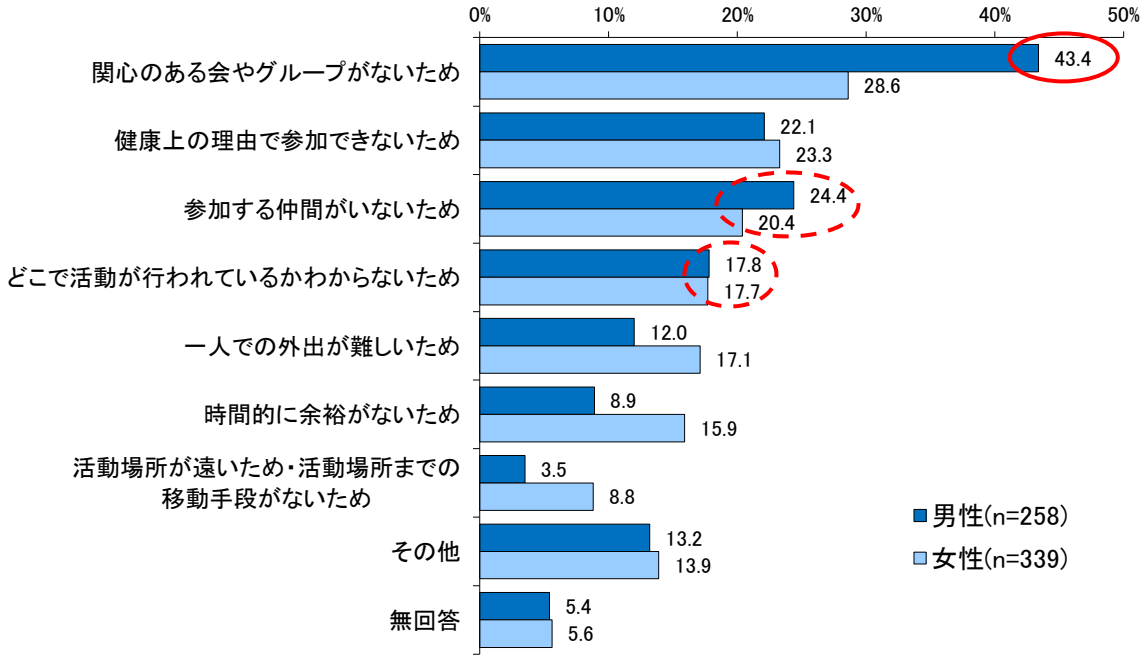


【地域活動への参加状況（週１回以上）】



- 地域活動に参加していない理由について性別にみると、男性で「関心のある会やグループがないため」と回答した人の割合が４割を超えている。
- 「参加する仲間がいないため」、「どこで活動が行われているかわからないため」など、改善することにより、参加につながる可能性がある回答が挙がっている。

【地域活動等に参加していない理由（性別）】



- 日常生活圏域別にみると、「関心のある会やグループがないため」と回答した人の割合は、岩国２で 48.0％となっている。

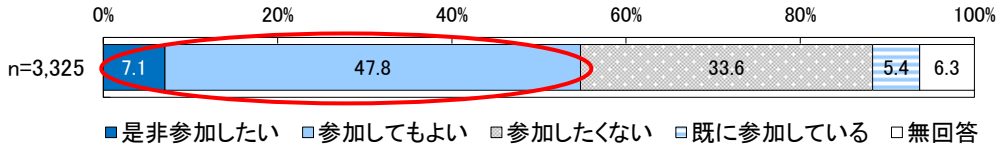
【地域活動等に参加していない理由（日常生活圏域別）】

	回答数	関心のある会やグループがないため	健康上の理由で参加できないため	参加する仲間がいないため	どこで活動が行われているかわからないため	一人での外出が難しいため	時間的に余裕がないため	活動場所が遠いため・活動場所までの移動手段がないため	その他	無回答
岩国1	236	34.3%	25.8%	22.0%	16.5%	15.7%	14.4%	5.9%	14.0%	4.2%
岩国2	102	48.0%	14.7%	20.6%	21.6%	13.7%	15.7%	7.8%	9.8%	2.9%
岩国3	115	29.6%	21.7%	21.7%	19.1%	16.5%	9.6%	7.8%	14.8%	7.8%
岩国4	111	31.5%	25.2%	26.1%	17.1%	11.7%	11.7%	4.5%	14.4%	6.3%
岩国5	33	30.3%	21.2%	15.2%	12.1%	18.2%	9.1%	9.1%	15.2%	12.1%

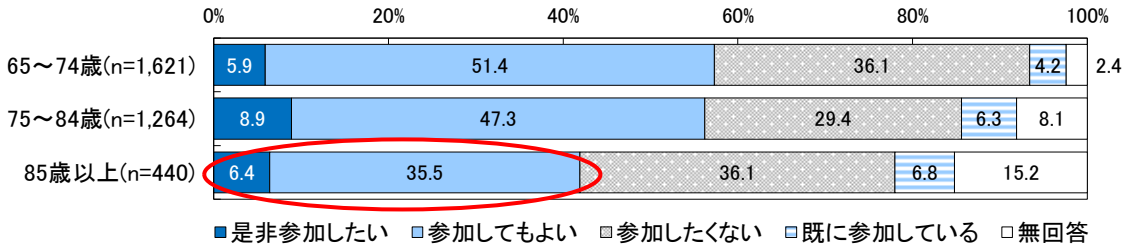
（2）健康づくりや趣味等のグループ活動への参加意向

- 地域住民の有志による健康づくり活動や趣味グループの活動に参加者として参加意向がある人の割合は 54.9％となっている。
- 年齢別にみると、『参加したい』と回答した人の割合は、年齢が上がるほど低く、85 歳以上で４割台となっている。
- 地域活動への参加状況が月１回未満の参加頻度が低い人においても、参加意向がある人の割合が４割を超えている。

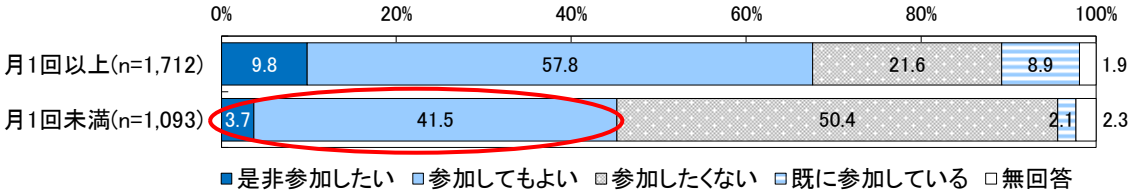
【地域づくりや趣味グループの活動への参加者としての参加意向】



【地域づくりや趣味グループの活動への参加者としての参加意向（年齢別）】

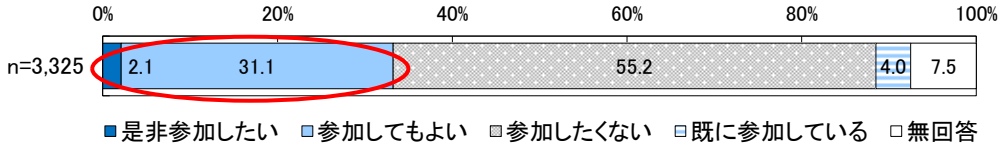


【地域づくりや趣味グループの活動への参加者としての参加意向（地域活動への参加状況別）】



- 企画・運営として参加意向がある人の割合は 33．2%となっている。

【地域づくりや趣味グループの活動への企画・運営としての参加意向】



［検討するべき課題］

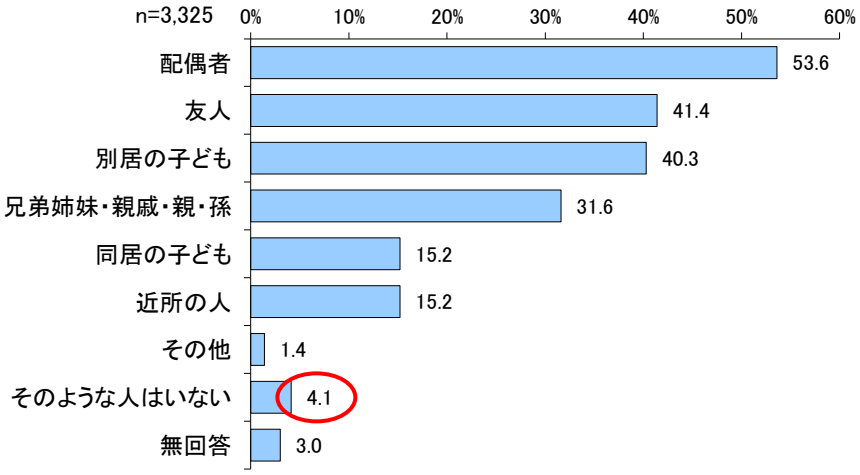
- 活動全体でみると、いずれかの活動や仕事に週１回以上参加している人は４割台であり、趣味関係、スポーツ関係、町内会・自治会の活動、収入のある仕事への参加率はやや高くなっている。
- 参加頻度が少ない人で自主的な活動への参加意向がある人もいることから、高齢者の楽しみや生きがいにつながるような活動の場の充実を図るとともに、身近な場での活動に参加できる状況や参加のきっかけづくり、既存の活動の情報提供など、参加を促す環境づくりが重要である。

4 相談

(1) 周囲の人との助け合いの状況

- 回答者の心配事や愚痴を聞いてくれる人は、家族・親戚や友人の割合が高くなっている。一方、「聞いてくれる人がいない」人は 4.1%となっているが、男性１人暮らしでは 21.6%と高くなっている。
- 日常生活圏域別にみると、「近所の人」と回答した人の割合は、岩国５で約２割となっている。

【心配事や愚痴を聞いてくれる人】



【心配事や愚痴を聞いてくれる人（性・家族構成別）】

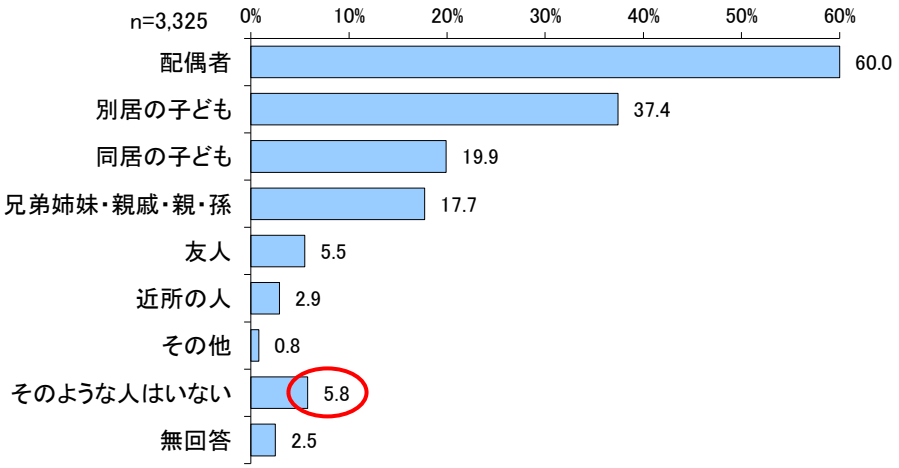
	回答数	配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近所の人	その他	そのような人はいない	無回答
男性　1人暮らし	231	2.6%	31.6%	25.1%	36.8%	0.9%	14.7%	1.3%	21.6%	4.8%
夫婦2人暮らし	880	86.9%	25.9%	35.5%	18.8%	2.4%	7.7%	0.8%	3.2%	1.9%
その他	372	61.3%	30.6%	23.7%	24.5%	39.8%	9.4%	2.7%	6.2%	2.7%
女性　1人暮らし	491	1.4%	55.8%	56.2%	38.9%	1.0%	23.6%	1.4%	3.9%	3.3%
夫婦2人暮らし	760	75.1%	53.7%	54.1%	38.3%	3.2%	19.3%	1.2%	1.2%	2.8%
その他	520	33.5%	49.0%	34.8%	40.6%	56.0%	17.5%	1.9%	1.2%	3.1%

【心配事や愚痴を聞いてくれる人（日常生活圏域別）】

	回答数	配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近所の人	その他	そのような人はいない	無回答
岩国1	1,028	52.6%	42.3%	36.9%	32.3%	15.6%	12.7%	2.2%	5.4%	3.1%
岩国2	712	56.2%	41.9%	42.0%	30.2%	13.9%	15.7%	0.4%	2.8%	2.5%
岩国3	688	52.0%	40.3%	42.9%	32.4%	14.7%	14.7%	1.5%	3.1%	3.3%
岩国4	601	54.6%	42.8%	40.4%	31.6%	18.6%	16.6%	1.2%	3.8%	2.7%
岩国5	296	52.4%	36.8%	42.2%	30.7%	11.8%	20.3%	1.7%	6.1%	4.1%

- 回答者が寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、家族・親戚の割合が高くなっている。一方、「看病や世話をしてくれる人がいない」人は 5.8%となっているが、男性１人暮らしでは 30.7%と高くなっている。
- 日常生活圏域別にみると、特徴的な差はみられない。

【看病や世話をしてくれる人】



【看病や世話をしてくれる人（性・家族構成別）】

	回答数	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近所の人	その他	そのような人はいない	無回答
男性　1人暮らし	231	3.0%	32.5%	0.4%	31.6%	7.8%	2.2%	0.9%	30.7%	4.8%
夫婦2人暮らし	880	94.0%	34.5%	3.9%	9.0%	0.7%	1.5%	0.3%	1.3%	1.1%
その他	372	68.3%	17.7%	52.4%	14.0%	1.9%	－	2.2%	3.8%	2.4%
女性　1人暮らし	491	1.0%	60.7%	1.2%	28.9%	13.2%	8.8%	1.2%	13.2%	3.7%
夫婦2人暮らし	760	86.7%	46.2%	3.6%	16.4%	7.9%	2.8%	0.5%	1.8%	2.4%
その他	520	40.6%	25.0%	71.3%	19.8%	4.0%	2.1%	0.8%	3.1%	2.3%

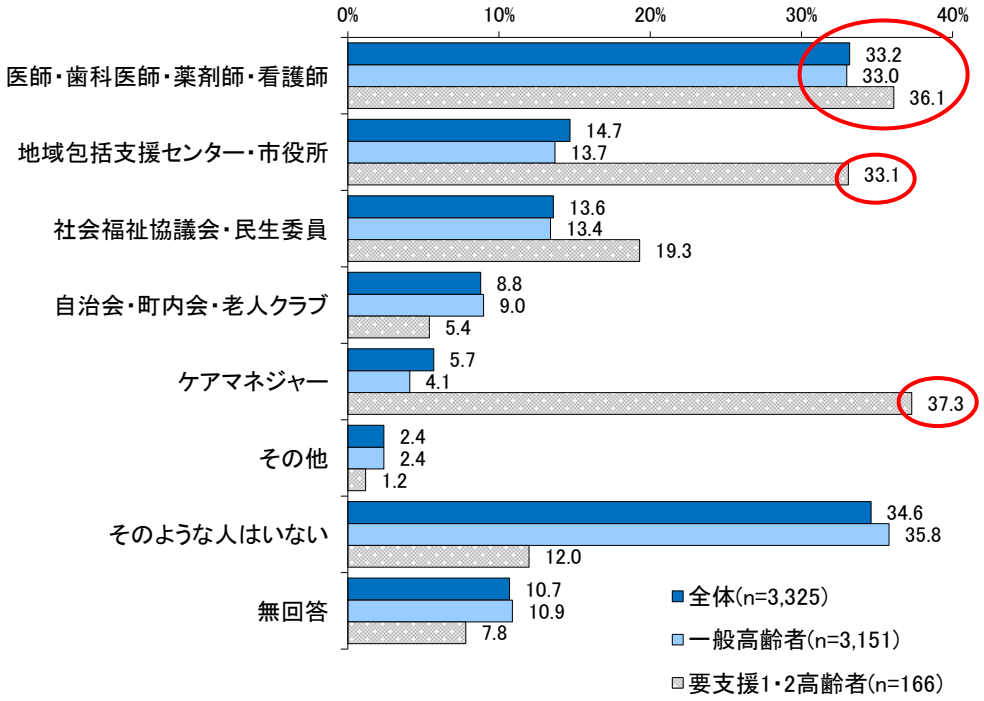
【看病や世話をしてくれる人（日常生活圏域別）】

	回答数	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近所の人	その他	そのような人はいない	無回答
岩国1	1,028	58.2%	35.5%	21.6%	16.5%	6.5%	2.7%	0.8%	5.7%	2.8%
岩国2	712	64.5%	39.6%	17.1%	17.8%	6.2%	2.8%	0.6%	4.6%	2.0%
岩国3	688	59.3%	37.8%	19.5%	17.4%	4.8%	3.2%	0.9%	5.5%	2.6%
岩国4	601	60.6%	37.6%	22.5%	18.1%	4.2%	2.3%	0.5%	7.0%	2.3%
岩国5	296	56.4%	36.8%	16.2%	20.6%	4.7%	4.1%	2.0%	7.4%	3.0%

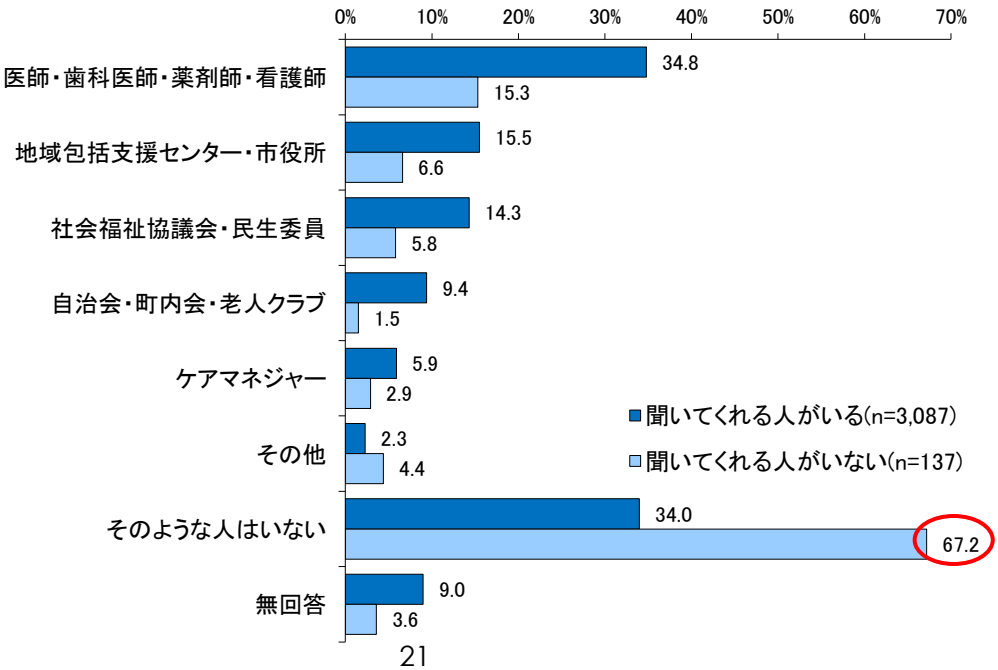
（2）相談の状況

- 回答者が、家族や友人･知人以外で相談する相手は、一般高齢者では「医師・歯科医師・薬剤師・看護師」が最も高く 33.0％であり、要支援１・２の高齢者でも 36.1％となっている。
- 要支援１・２の高齢者では「ケアマネジャー」、「地域包括支援センター・市役所」も３割を超えている。
- 自分の心配事や愚痴を「聞いてくれる人がいない」と回答した人のうち、家族や友人以外の「相談する相手がいない」と回答した人が 67.2％となっている。

【家族や友人・知人以外の相談相手（対象者区分別）】

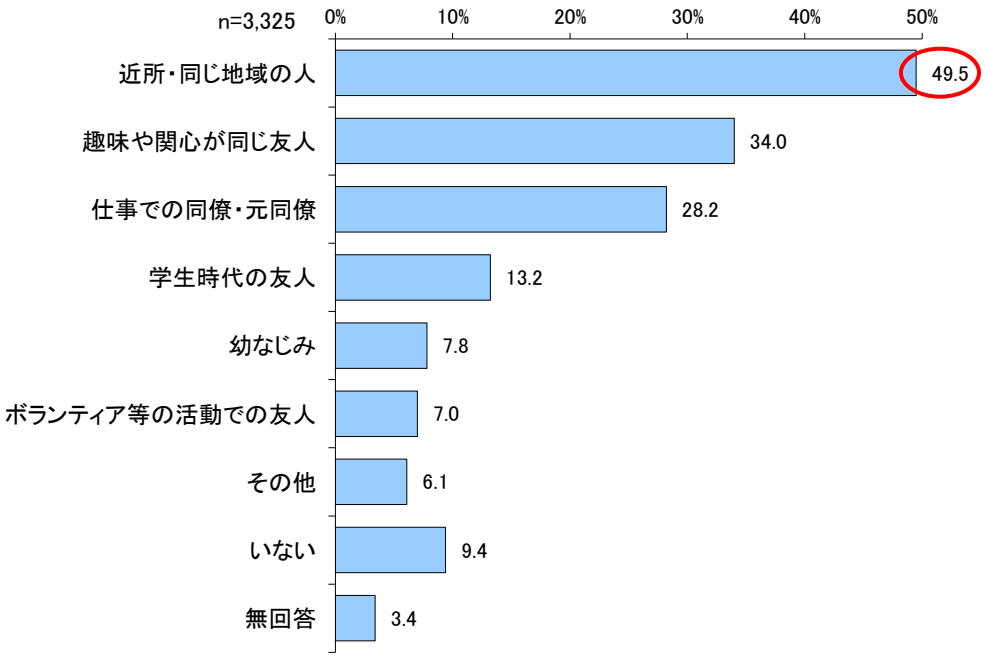


【家族や友人・知人以外の相談相手（心配事や愚痴を聞いてくれる人の有無別）】



- よく会う友人・知人との関係について、「近所・同じ地域の人」と回答した人の割合が 49.5%と最も高くなっている。

【よく会う友人・知人との関係】



［検討するべき課題］

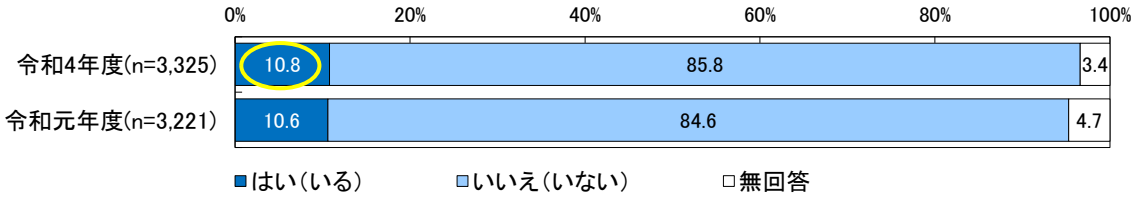
- 多くの高齢者が、家族・親戚や友人に相談できると回答しているが、男性１人暮らしでは相談できる人がいない割合が高く、そのような身近に相談できる人がいない高齢者の６割以上が医療機関や地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員等にも相談できていない状況がある。
- 相談先の情報発信など、日常的に相談ができる体制づくりが重要である。
- 看病や世話をしてくれる人がいない高齢者の割合は、男女とも１人暮らしで特に高くなっており、関係機関、地域と連携して緊急時や病気の際にその状況に応じて支援につなげることができる体制づくりが重要である。

5　認知症への対応

(1)本人または家族に認知症の症状がある状況

- 本人または家族に認知症の症状がある人の割合は 10.8%となっている。

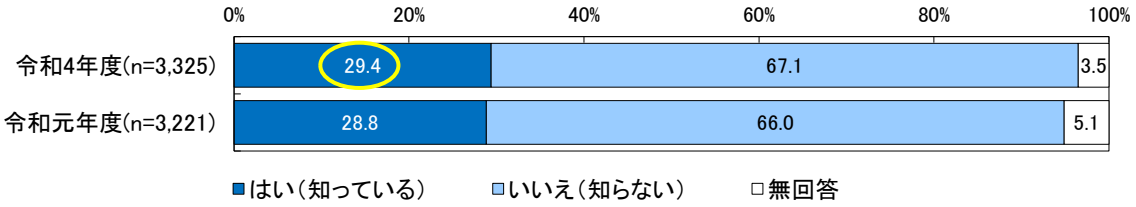
【本人または家族で認知症の症状がある人の有無（前回調査結果との比較）】



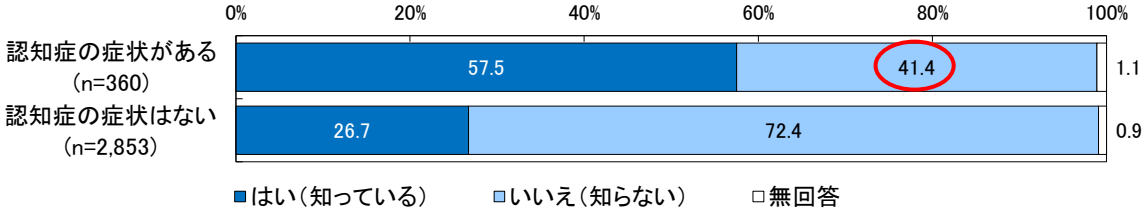
(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

- 認知症に関する相談窓口を知っている人の割合は 29.4%となっており、本人または家族に認知症の症状がある人においても 4 割を超える人が知らないと回答している。

【認知症に関する相談窓口の認知度（前回調査結果との比較）】



【認知症に関する相談窓口の認知度（本人や家族に認知症の症状がある人の有無別）】



[検討するべき課題]

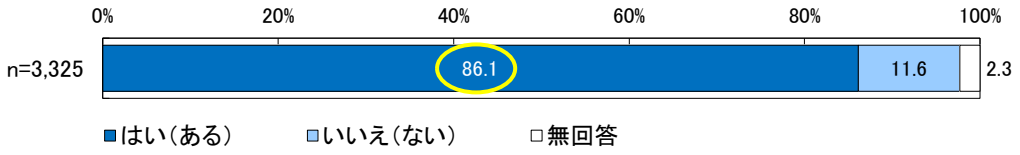
- 今後、後期高齢者の増加に伴い、認知症の人の増加も見込まれており、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる環境づくりが求められている。しかし、認知症の症状が本人や家族にある人においても、認知症に関する相談窓口を知らない状況がある。
- これまで取り組んできた認知症施策の進捗も踏まえ、認知症に関する相談窓口の充実や認知症の人を早期に把握し、必要な対応や支援につなぐ体制づくりを、今後さらに充実させることが重要である。

6 在宅での生活の継続

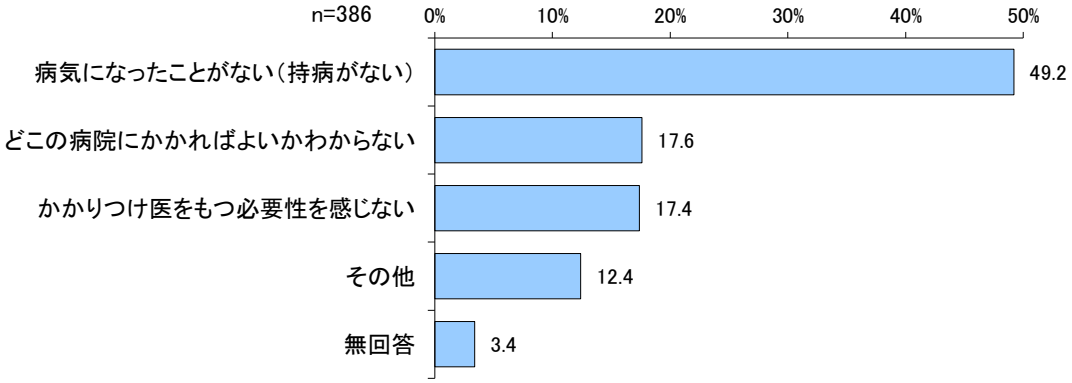
(1) かかりつけ医の有無

- かかりつけ医がいる人の割合は全体で 86.1%となっている。
- かかりつけ医をもっていない理由について、「病気になったことがない（持病がない)」と回答した人の割合が最も高くなっているが、「どこの病院にかかればよいかわからない」という回答も挙がっている。

【かかりつけ医の有無】



【かかりつけ医をもっていない理由】



（2）安心して自宅での生活を継続するために必要な支援やサービス

- 安心して自宅での生活を継続するために必要な支援やサービスは、「急病など緊急時の手助け」、「配食」が上位となっている。
- 性・家族構成別にみると、男性１人暮らしでは「掃除・洗濯」が 28.1%、男性夫婦２人暮らしでは「配食」が 34.0%、女性１人暮らしでは、「ゴミ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事」が 22.6%、「見守り、声かけ」が 21.6%となっている。
- 日常生活圏域別にみると、特徴的な差はみられない。

【安心して自宅での生活を継続するために必要な支援やサービス（性・家族構成別）】

	回答数	急病など緊急時の手助け	配食	買い物（宅配は含まない）	掃除・洗濯	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	外出同行（通院や買い物など）	見守り、声かけ	ゴミ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事
全体	3,325	34.5%	26.2%	22.4%	20.3%	19.5%	16.7%	15.5%	12.8%
男性　1人暮らし	231	33.8%	29.9%	21.2%	28.1%	7.8%	7.8%	17.7%	7.4%
夫婦2人暮らし	880	36.1%	34.0%	23.5%	23.2%	19.3%	13.0%	13.8%	7.7%
その他	372	30.4%	29.6%	19.4%	21.0%	22.0%	14.5%	11.6%	8.1%
女性　1人暮らし	491	40.9%	16.7%	22.6%	16.3%	16.7%	16.9%	21.6%	22.6%
夫婦2人暮らし	760	35.0%	25.1%	25.8%	18.3%	23.9%	21.3%	14.5%	17.1%
その他	520	30.2%	21.5%	19.8%	18.8%	20.0%	21.5%	15.8%	12.1%

	回答数	調理	話し相手	サロンなどの定期的な通いの場	悩み事の相談	その他	特になし	無回答
全体	1,028	11.2%	6.9%	4.3%	4.2%	0.7%	13.9%	9.0%
男性　1人暮らし	231	15.2%	8.7%	2.2%	6.5%	0.9%	16.0%	8.2%
夫婦2人暮らし	880	14.1%	5.5%	2.6%	3.9%	0.8%	16.1%	6.9%
その他	372	11.6%	7.0%	2.4%	5.1%	0.3%	19.4%	5.9%
女性　1人暮らし	491	4.1%	9.4%	6.3%	3.7%	1.0%	9.0%	11.2%
夫婦2人暮らし	760	11.2%	5.7%	4.7%	4.1%	0.8%	9.9%	9.2%
その他	520	12.1%	8.3%	6.9%	4.0%	0.4%	15.0%	10.2%

【安心して自宅での生活を継続するために必要な支援やサービス（日常生活圏域別）】

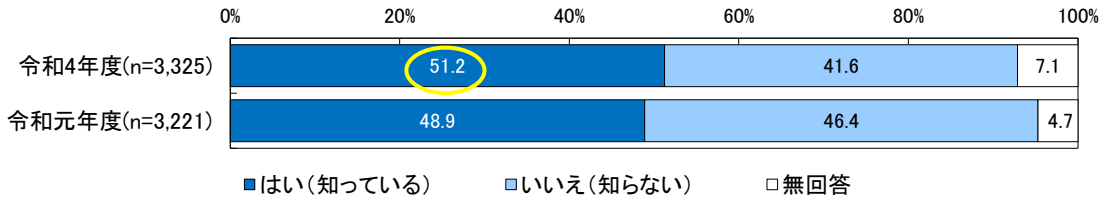
	回答数	急病など緊急時の手助け	配食	買い物（宅配は含まない）	掃除・洗濯	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	外出同行（通院や買い物など）	見守り、声かけ	ゴミ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事
岩国1	1,028	34.9%	26.1%	19.7%	22.4%	17.7%	15.6%	15.9%	13.0%
岩国2	712	35.1%	24.7%	27.4%	21.2%	20.5%	15.9%	15.0%	15.2%
岩国3	688	31.7%	28.6%	21.1%	18.9%	19.6%	17.3%	14.4%	12.1%
岩国4	601	34.9%	27.1%	22.3%	18.8%	21.1%	18.1%	16.8%	10.8%
岩国5	296	37.5%	23.0%	23.3%	17.6%	19.9%	17.9%	15.2%	12.2%

	回答数	調理	話し相手	サロンなどの定期的な通いの場	悩み事の相談	その他	特になし	無回答
岩国1	1,028	10.8%	6.2%	4.6%	4.8%	0.6%	15.4%	8.5%
岩国2	712	11.0%	7.0%	4.4%	4.8%	0.4%	12.9%	8.0%
岩国3	688	11.2%	6.7%	4.9%	3.6%	0.7%	14.5%	10.0%
岩国4	601	12.6%	7.0%	3.2%	3.0%	1.0%	13.1%	8.7%
岩国5	296	10.5%	9.1%	4.4%	4.1%	1.0%	11.1%	11.8%

（3）地域包括支援センターの認知度

- 地域包括支援センターを知っていると回答した人の割合は、全体で 51.2%であり、前回調査と比較すると上昇している。

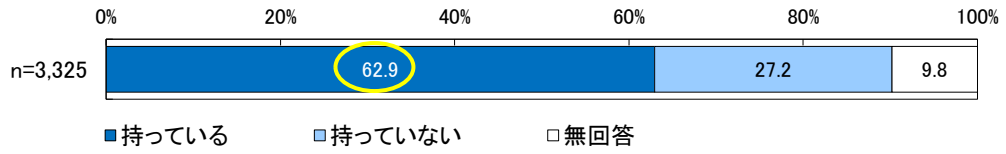
【地域包括支援センターの認知度（前回調査結果との比較）】



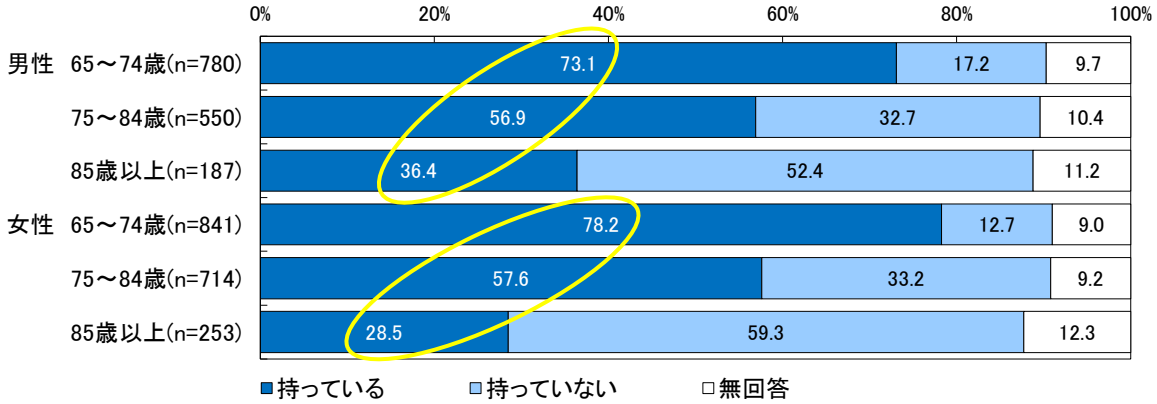
（4）スマートフォンの利用

- スマートフォンについて、「持っている」と回答した人の割合が 62.9％となっており、男女とも年齢が低いほど高くなっている。
- スマートフォンを持っている人が利用している機能やアプリ等について、「メッセージアプリ（ＬＩＮＥ（ライン）等)」は 72.6％であり、カメラとともに７割を超えている。

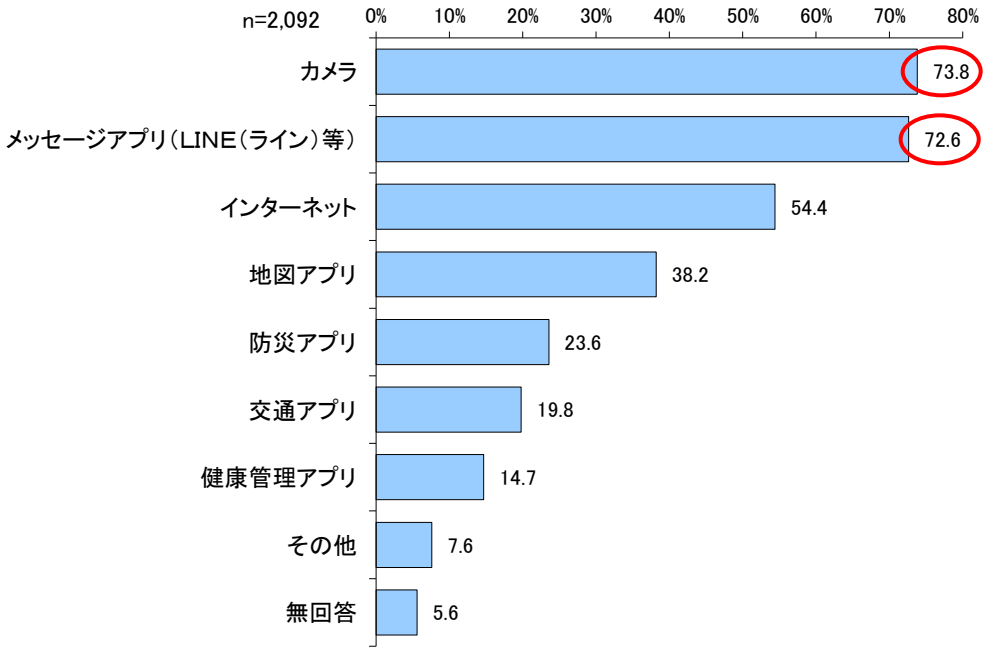
【スマートフォンの有無】



【スマートフォンの有無（性・年齢別）】



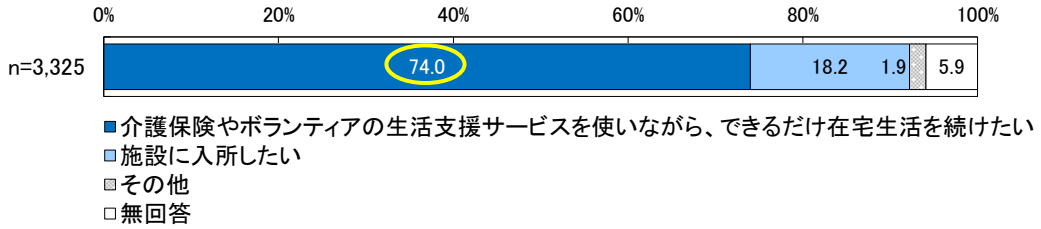
【利用している機能・アプリ等（スマートフォンを持っている人)】



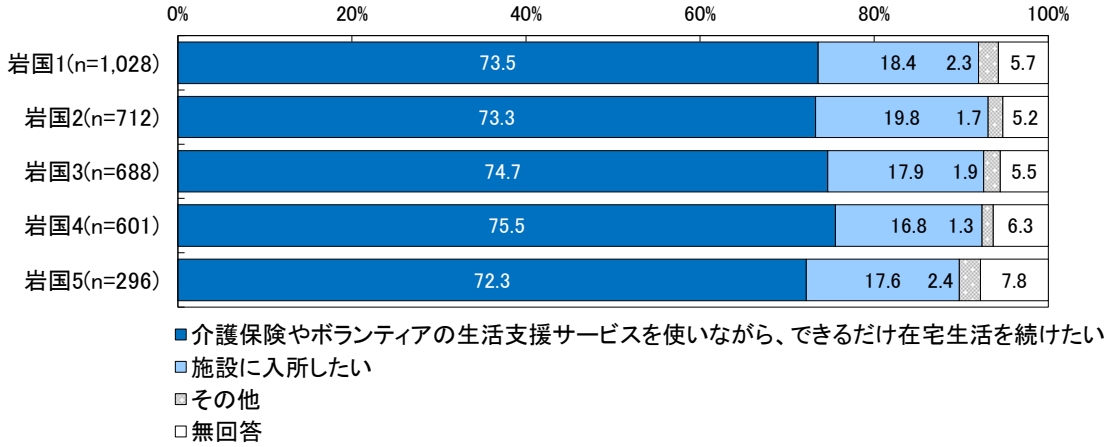
（5）日常生活で介助が必要になった場合の生活の希望

- 高齢となり、介助が必要になった場合に望む生活として、「介護保険やボランティアの生活支援サービスを使いながら、できるだけ在宅生活を続けたい」と回答した人の割合が 74.0％となっている。
- 日常生活圏域別にみると、特徴的な差はみられない。

【日常生活で介助が必要になった場合の生活の希望】



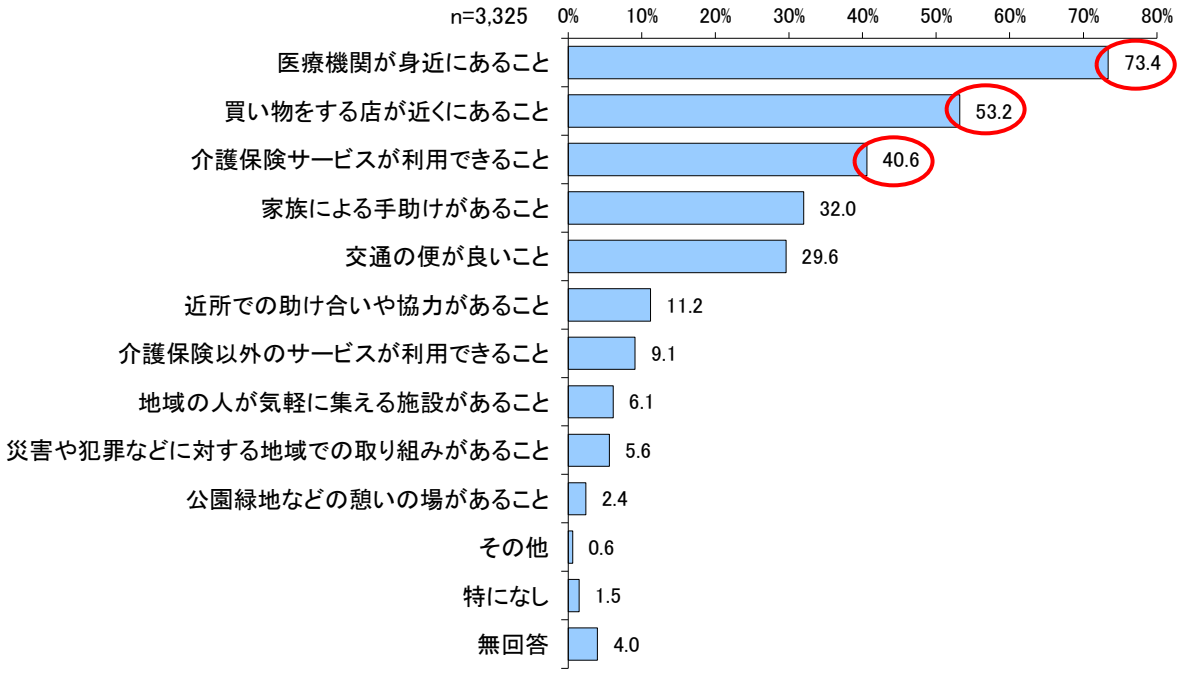
【日常生活で介助が必要になった場合の生活の希望（日常生活圏域別）】



（6）高齢期に希望する場所で暮らすために必要なこと

- 高齢期に希望する場所で暮らすために必要なことについて、「医療機関が身近にあること」、「買い物をする店が近くにあること」、「介護保険サービスが利用できること」が上位となっている。

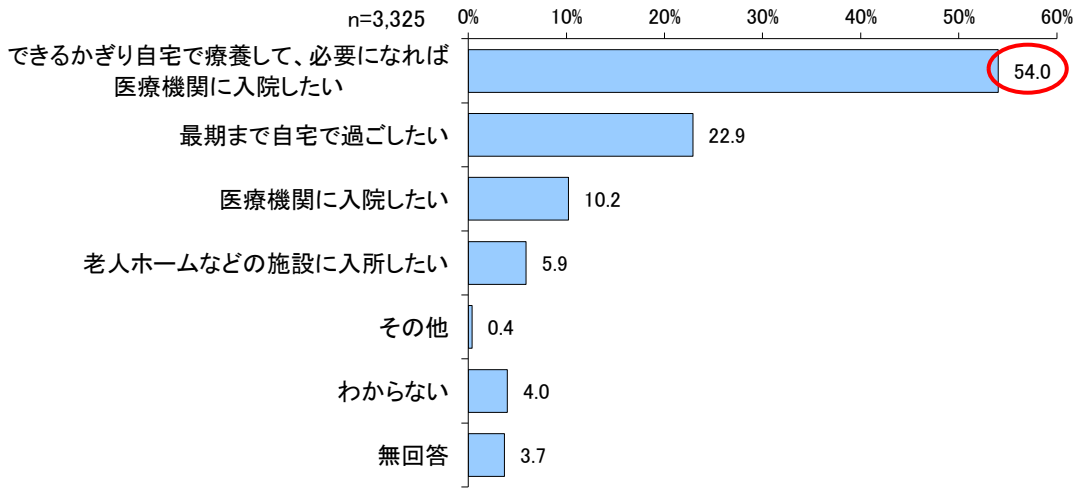
【高齢期に希望する場所で暮らすために必要なこと】



（7）人生の最期を過ごしたい場所

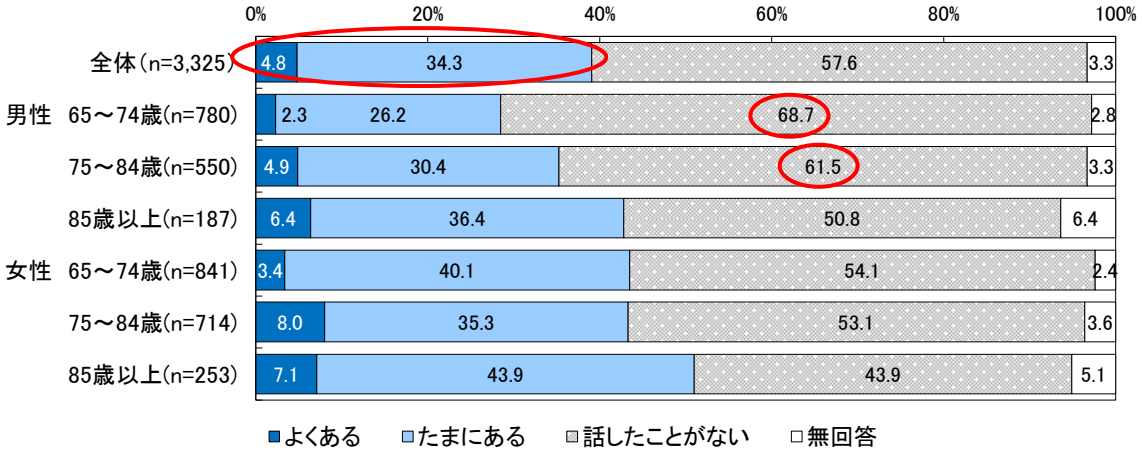
- 人生の最期を過ごしたい場所について、「できるかぎり自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」が最も高くなっている。

【人生の最期を過ごしたい場所】



- 人生の最期に過ごしたい場所を家族に話す機会がある人は 39.1%となっている。
- 性・年齢別にみると、男性 65～74 歳、男性 75～84 歳では、「話したことがない」と回答した人が６割台となっている。

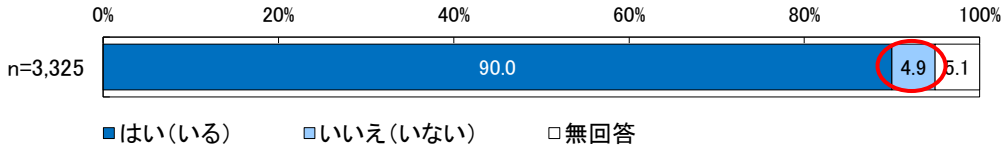
【人生の最期に過ごしたい場所を家族に話す機会の有無（性・年齢別）】



（8）身元引受人となる人の有無

- 施設への入所が必要になった場合の身元引受人となる親族の有無について、「いいえ（いない）」と回答した人の割合が 4.9%となっている。

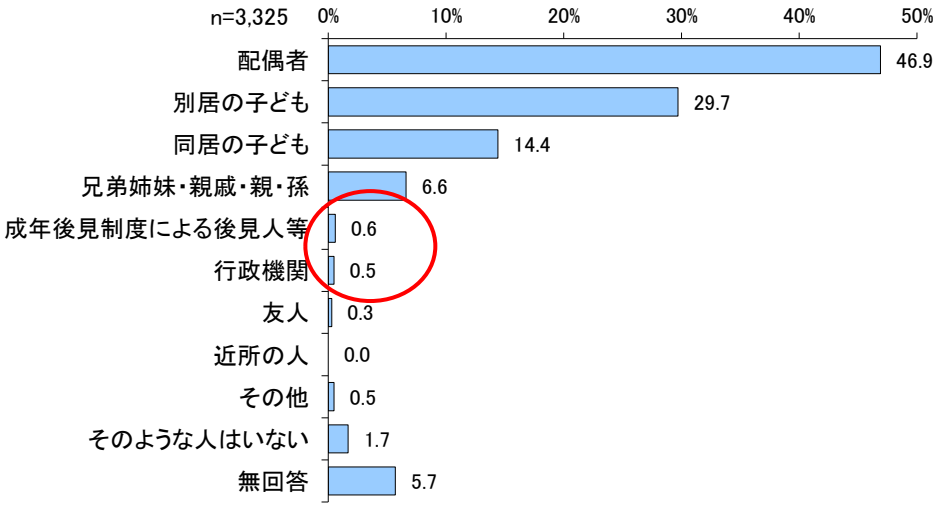
【施設への入所が必要になった場合の身元引受人となる親族の有無】



（9）判断能力が不十分になった場合に頼りたい人

- 判断能力が不十分になった場合に頼りたい人について、家族等の身近な人以外では、「成年後見制度による後見人等」が 0.6%、「行政機関」が 0.5%となっている。

【判断能力が不十分になった場合に頼りたい人】



【判断能力が不十分になった場合に頼りたい人（性・年齢別）】

	回答数	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	成年後見制度による後見人等	行政機関
男性　65～74歳	780	66.0%	17.1%	5.5%	9.4%	0.4%	0.9%
75～84歳	550	63.5%	23.8%	9.1%	4.4%	0.4%	0.4%
85歳以上	187	41.7%	32.6%	17.6%	2.1%	2.1%	－
女性　65～74歳	841	45.9%	32.8%	15.8%	6.1%	0.6%	0.2%
75～84歳	714	28.6%	38.8%	20.4%	6.6%	0.7%	0.4%
85歳以上	253	10.3%	43.9%	29.6%	7.9%	0.4%	0.4%

	回答数	友人	近所の人	その他	そのような人はいない	無回答
男性　65～74歳	780	0.4%	－	0.4%	4.5%	3.6%
75～84歳	550	0.2%	－	0.5%	1.3%	5.6%
85歳以上	187	－	－	－	－	10.2%
女性　65～74歳	841	0.2%	－	0.4%	0.7%	5.2%
75～84歳	714	0.4%	0.1%	0.7%	0.8%	6.3%
85歳以上	253	－	－	0.4%	1.2%	8.7%

［検討するべき課題］

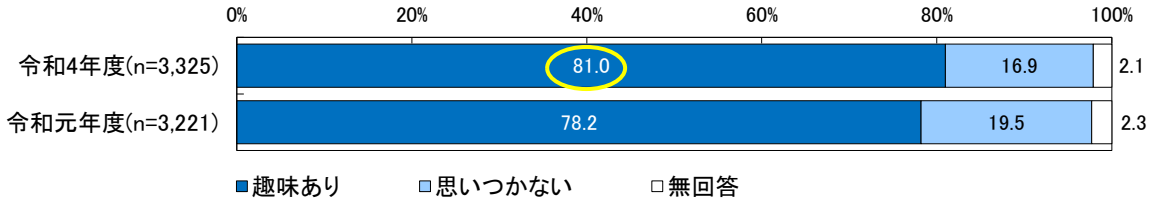
- 多くの高齢者が、介護が必要になっても自宅での暮らしの継続を望んでおり、そのためには本人やその家族等を地域全体で見守り、支えていくことが重要である。
- 高齢期に希望する場所で暮らすために必要なこととして、通院や買い物の利便性や介護保険サービスの利用等が上位になっていることから、通院や買い物等の日常生活に係る支援、介護保険サービスの円滑な提供体制を推進することが重要である。
- 支えてくれる人がいない高齢者や経済的に困難な状況にある高齢者など、個々の状況に応じて必要な支援につなぐ体制整備が重要である。

7 健康感・幸福度

（1）趣味の有無

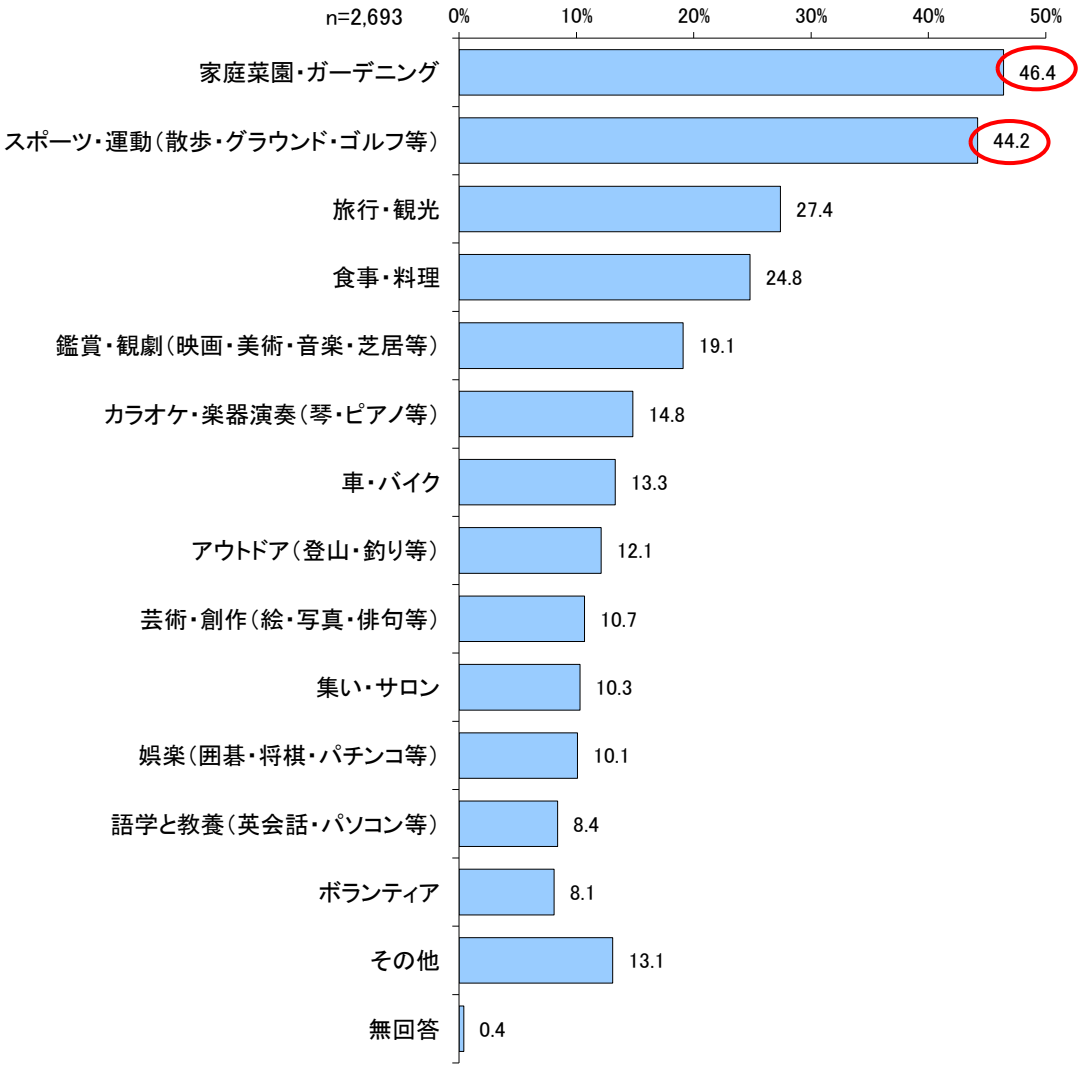
- 「趣味あり」と回答した人の割合が 81.0％となっている。

【趣味の有無（前回調査結果との比較）】



- 趣味の内容について、「家庭菜園・ガーデニング」と回答した人の割合が 46.4％と最も高く、次いで「スポーツ・運動（散歩・グラウンド・ゴルフ等）」（44.2％）となっている。

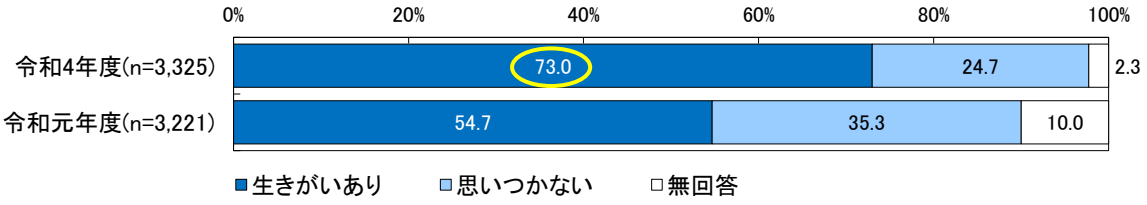
【趣味の内容】



（2）生きがいの有無

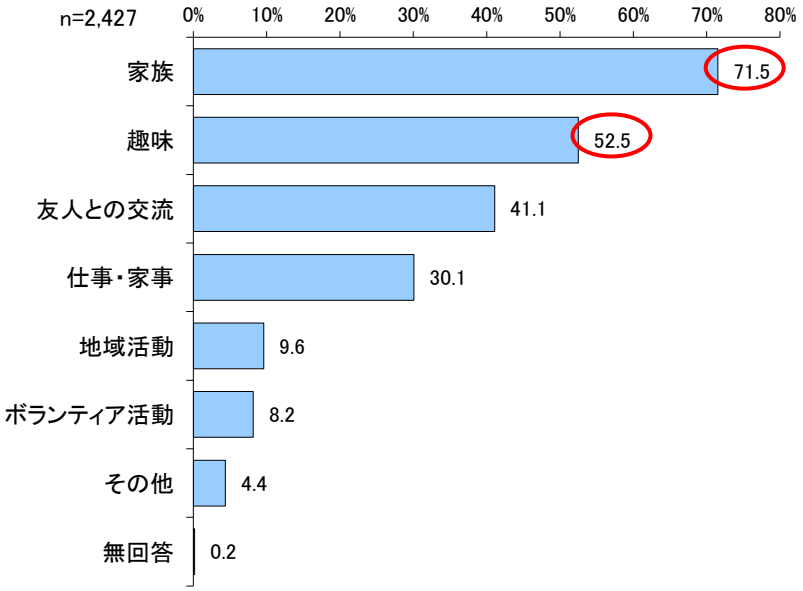
- 「生きがいあり」と回答した人の割合が 73.0％となっている。

【生きがいの有無（前回調査結果との比較）】



- 生きがいの内容について、「家族」と回答した人の割合が 71.5％と最も高く、「趣味」（52.5％）が続いている。

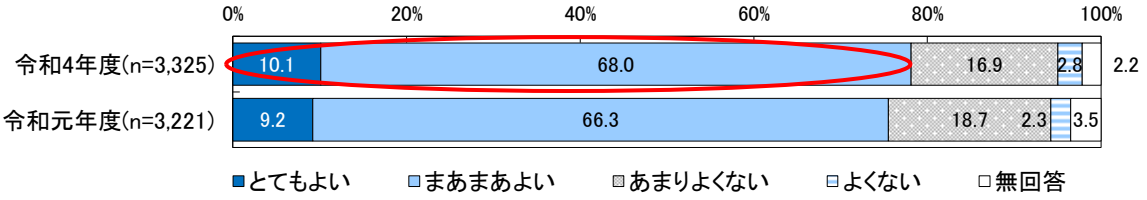
【生きがいの内容】



（3）健康感

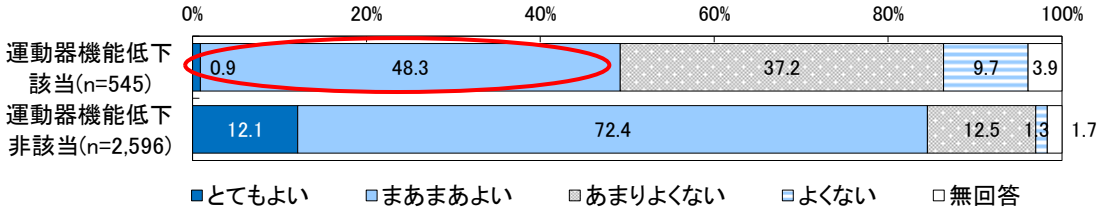
- 健康状態がよい（「とてもよい」＋「まあまあよい」）と回答した人の割合は78.1%となっている。

【現在の健康状態（前回調査結果との比較）】



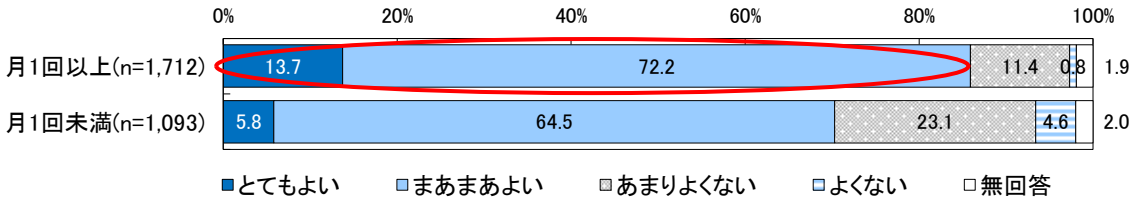
- 運動器機能が低下している人は、健康状態がよいと回答した人の割合が４割台と低くなっている。

【現在の健康状態（運動器機能低下の該当別）】

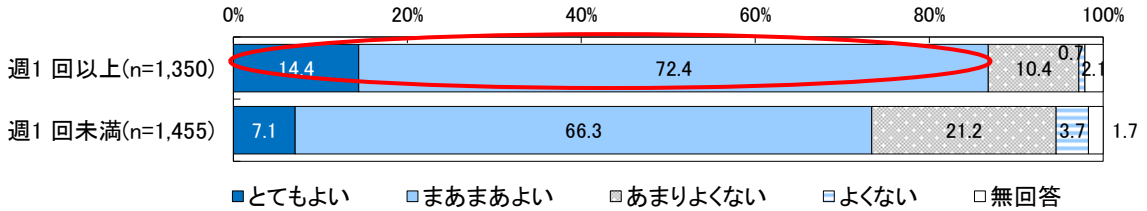


- 地域活動への参加状況別にみると、健康状態がよいと回答した人の割合は、月１回以上参加している人で85.9%、週１回以上参加している人で86.8%となっている。

【現在の健康状態（地域活動への月１回以上の参加状況別）】

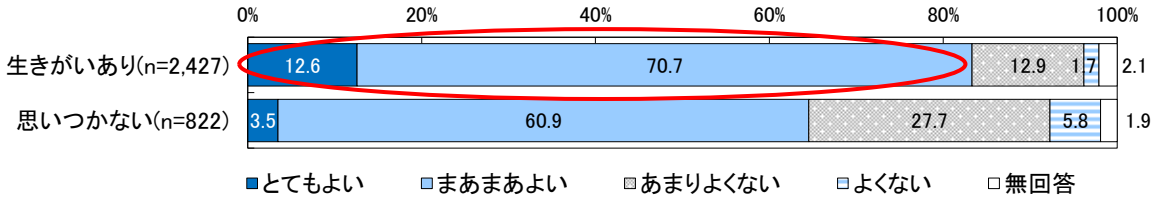


【現在の健康状態（地域活動への週１回以上の参加状況別）】



- 生きがいがある人は、健康状態がよいと回答した人が８割を超えている。

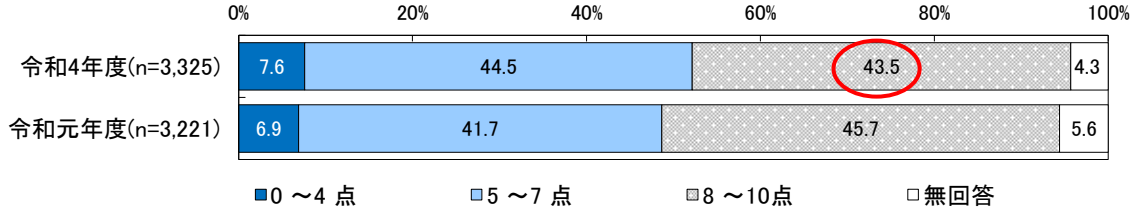
【現在の健康状態（生きがいの有無別）】



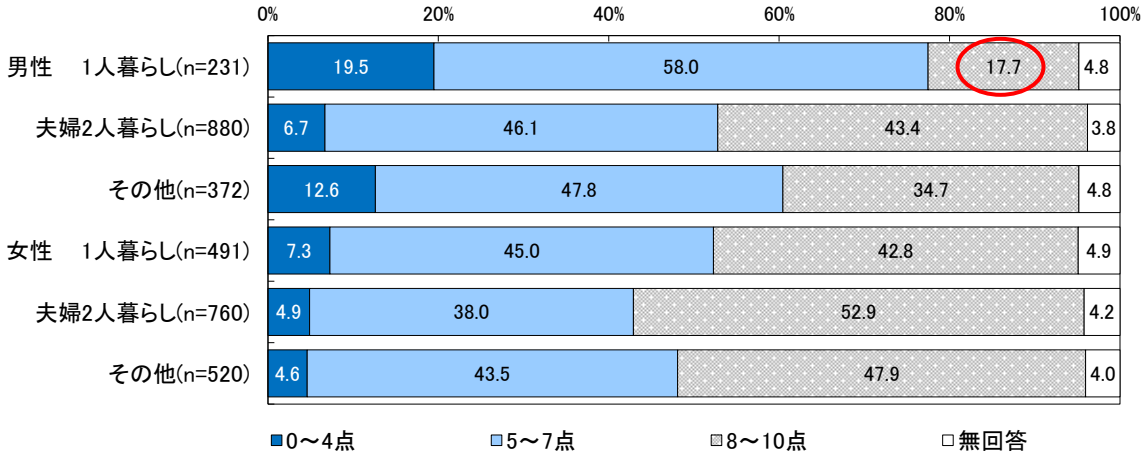
（4）幸福度

- 幸福度が８点以上の人の割合は 43.5％となっている。
- 男性１人暮らしでは、幸福度が８点以上の人の割合が低く、17.7％となっている。

【幸福度】

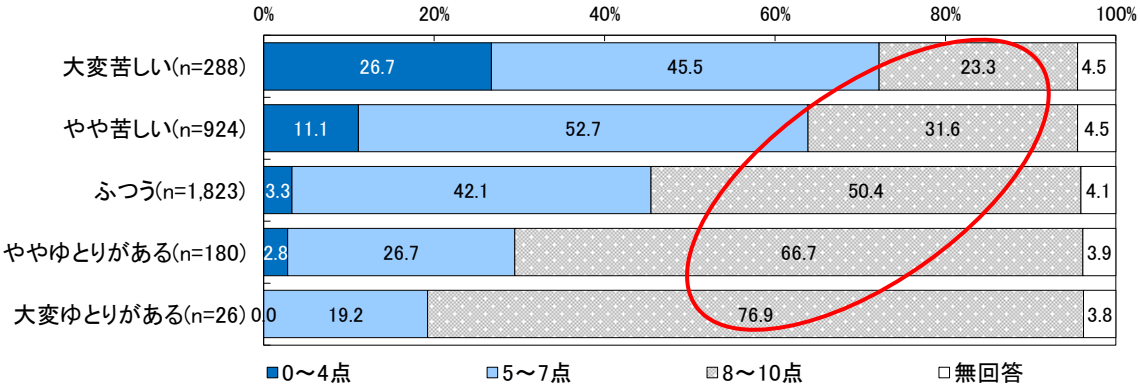


【幸福度（性・家族構成別）】

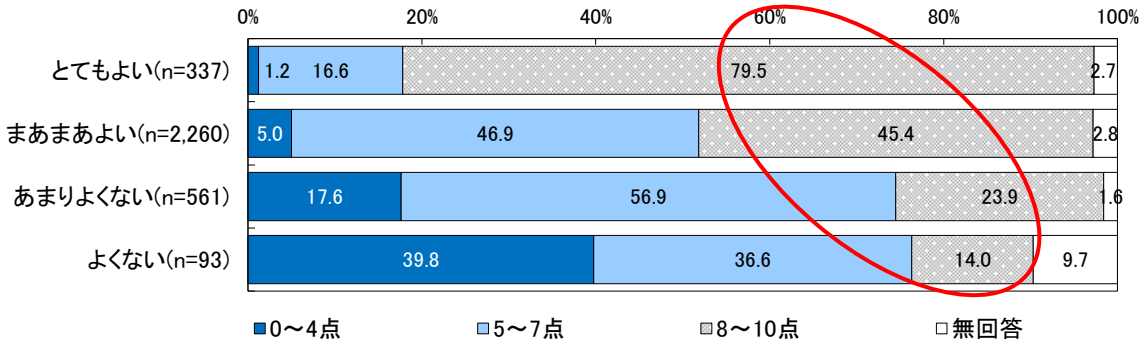


- 経済状況にゆとりがある層で、幸福度が８点以上の人の割合が高くなっている。
- 健康感がよいと回答した人ほど、幸福度が８点以上の人の割合が高くなっている。

【幸福度（経済状況別）】

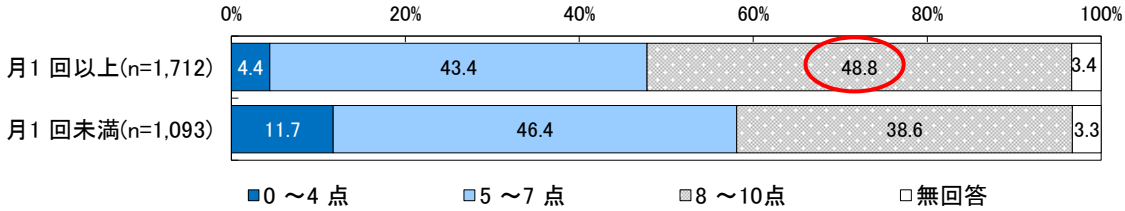


【幸福度（健康感別）】

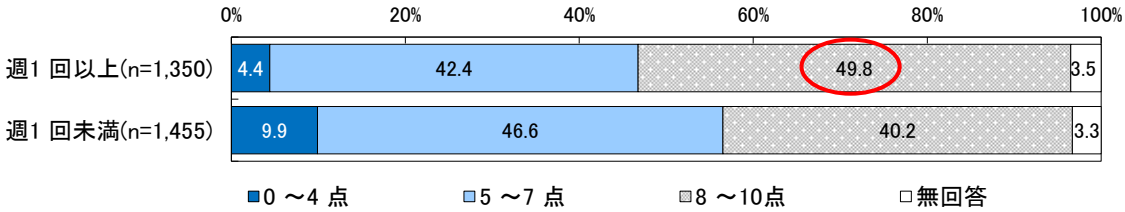


- 地域活動への参加状況別にみると、幸福度が８点以上の人の割合は、月１回以上参加している人で 48.8%、週１回以上参加している人で 49.8%となっている。

【幸福度（地域活動への月１回以上の参加状況別）】

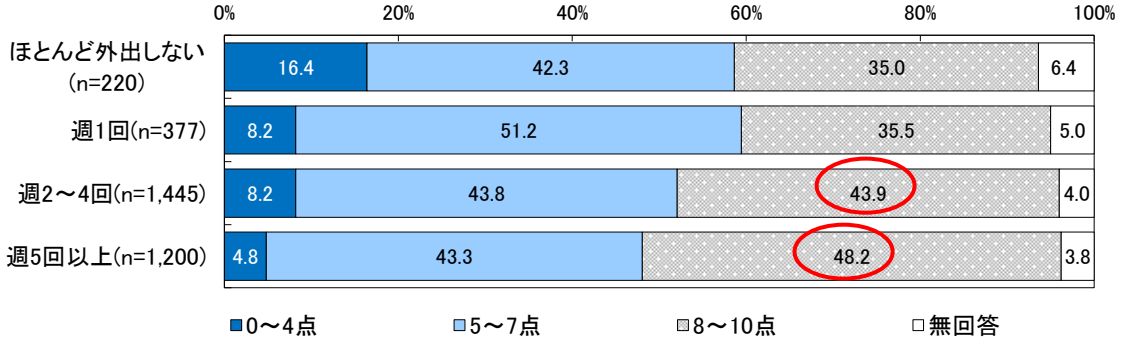


【幸福度（地域活動への週１回以上の参加状況別）】



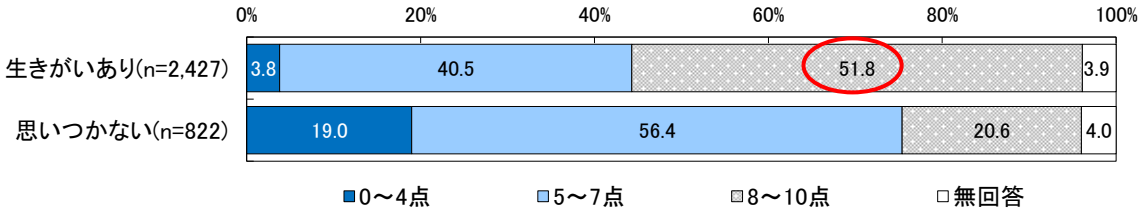
- 外出頻度別にみると、週２～４回、週５回以上で幸福度が８点以上の人の割合が４割を超えている。

【幸福度（外出頻度別）】

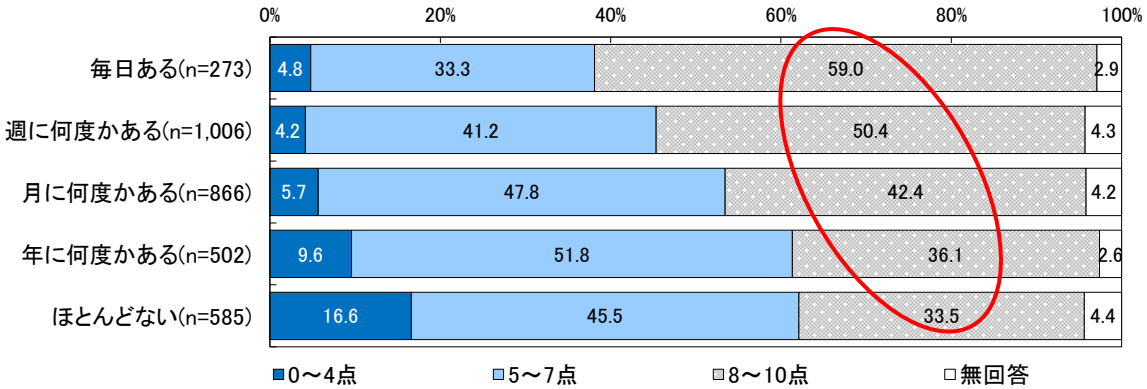


- 生きがいがある層で、幸福度が８点以上の人の割合が高くなっている。
- 友人・知人と会う頻度が多いほど、幸福度が８点以上の人の割合が高くなっている。

【幸福度（生きがいの有無別）】



【幸福度（友人・知人と会う頻度別）】



［検討するべき課題］

- 幸福度は、健康感や要介護のリスクの有無とともに、人とのつながりや経済状況など、社会的な状況にも関連がある結果となっている。
- 生きがいや役割をもって参加できる活動の充実等による健康づくりへの支援や日常生活における困難な状況を解決するための支援など、高齢者の個々の状況に応じた支援を、地域や関係機関等と連携して推進することが重要である。